石川縣健康相談所ニ於ケル種々ナル統計的報告

後　　編

結核性疾患ニ就テノ統計報告

醫學博士　中　島　信　一
Shin'ichi Nakashima

醫學士　竹　谷　幸　太　郎
Kotaro Takeya

（昭和14年7月7日受附）

内　容　抄　録

石川縣健康相談所ニ於ケル種々ナル統計報告ノ後編デアツテ，諸種結核性疾患ニ就テノ臨牀的統計成績ヲ收錄シタモノデアル．

凡テノ結核性疾患ヲ系統的ニ分類シテ8章トナシ更ニ之ヲ細目ニ分チ，各章ノ初メニハ分類法ニ關シテ解說的論述ヲナシ，成績ハ年度別，性別，年齡別等ニシテ表示シ，尙ホ必要ナルモノニ就テハ當該疾患ノ全被驗者並ニ全結核ニ對スル百分率ヲ算出シ，又罹患側別等ヲモ添附シタ．

目　　次

ハシガキ
第1章　肺結核
　第1節　肺ノ第一次結核
　　(A)　軟性初期變化群
　　(B)　硬性初期變化群
　第2節　肺ノ第二次結核
　　(A)　血行性撒布性肺結核
　　(B)　限局型肺結核
　　a)　肺尖結核
　　b)　通常慢性肺癆
第2章　肋膜炎
　第1節　新鮮ナル肋膜炎
　　(A)　通常滲出性肋膜炎
　　(B)　乾性肋膜炎
　　(C)　異型性肋膜炎
　第2節　肋膜癒着肥厚
第3章　腹膜炎
第4章　腸結核
第5章　脊椎カリエス」並ニ肋骨カリエス」
第6章　泌尿器結核
第7章　淋巴腺結核
第8章　其ノ他結核
　　結　　論

ハシガキ

前編デハ石川縣健康相談所ニ於テ，昭和10年初メヨリ同12年末ニ至ル3年間ニ得タ種々ナル事業成績並ニ非結核性疾患ニ就テノ統計的成績ヲ發表シタ．

本編ニ於テハ同期間內ニ診療シタ種々ナル結核性疾患ニ就テノ統計成績ヲ收錄スルコトヽシタ．

我々ノ採ツタ結核性疾患ノ分類法ニ關シテハ，前編ニ於テモ略述シテ置イタノデアツタガ，本編ニ於テハ以下項目ヲ追フテ之ヲ詳述スルコトヽスル．

第1章 肺結核

Ranke ハ結核ヲ其ノ病理解剖學的所見ニ免疫血淸學的ノ考察ヲ加ヘテ，三ツノ病期ニ分ケテ居ル事ハ周知ノ如クデアル．之ハ結核ト云フ疾病ノ全經過ヲ概念的ニ理解スル上ニ甚ダ便利デハアルガ，Redeker 等モ說ク如ク，第二期及第3期アレルギー」ハ，旣ニ固定性ノモノデハナク，互ニ可逆性ノモノデアルトサレテキルシ，又臨床上個々ノ患者ノ經過ニ就テミテモ，第二期，第三期ヲ明確ニ指摘スル事ハ時ニ甚ダ困難デアリ，黴毒患者ニ就テ明カニ其ノ病期ヲ指摘シ得ルノトハ些カ趣ヲ異ニシテキル．

卽チ結核ニ於テハ第二期，第三期ヲ各々ノ病期トシテ認メル事ハ，實際ニ當ツテ多クノ無理ヲ伴フモノデアルカラ，我々ハ緒方教授等ノ唱導スルトコロニ從ヒ，初期變化群ノミガ見ラルヽモノヲ第一次肺結核トシ，其レ以上ノ變化ノ起ツテキル Ranke ノ第二期及ビ第三期ニ相當スルモノヲ一括シテ第二次肺結核ト名付クル事トシタ．

因ニ肺結核ニ對スル我々ノ診斷ハ，理學的所見，X線所見，「ツベルクリン反應其ノ他ノ一般檢査法ヲ經トシ，患者ノ病歷，家族歷，並ニ疾病ノ經過等ヲ緯トシテ決定シタモノデアル．

第1節 肺ノ第一次結核

之ハ所謂初期變化群ノミヲ見ル場合デアツテ，時間的經過ニ依ツテ新鮮ナルモノヨリ全ク石灰化セルモノマデ種々ナル段階ヲ有シテキル．其ノ新鮮ナルモノハ多ク小兒ニ於テ見ラレ，之ニ病竈周圍浸潤等ガ加ハツテ，所謂小兒型結核ノ大部分ヲナスモノデアルガ，又靑年期以後ニ於テモ，新シイ初感染病變ヲ見ル事ハ數々アル．初感染後比較的早期ノ間ニ見ラルヽ新鮮ナモノヲ軟性初期變化群ト言ヒ，病機退行シテ陳舊トナリ，瘢痕化乃至石灰化シタモノハ之ヲ硬性初期變化群ト稱スル．

尙ホ此ノ項ニ編入シタモノハ，第一次結核症ノ像ノミヲ見ルモノデアツテ，初感原發竈ガ軟化シテ管腔性轉移竈ヲ形成シ，第二次肺結核ヘノ素地ヲ造リツヽアリト考ヘラルヽモノ，或ハ多少ナリトモ血行性轉移竈ヲ見ルモノ等ハ凡テ之ヲ除外シタ．

(A) 軟性初期變化群

初感原發竈ハ，病理解剖學的ニハ著明ナ滲出性機轉ヲ有スル初期肺胞炎 Primäre Alveolitis デアル．之ヲ中心トシテ周局性 Perifokal ニ細胞浸潤ガ存在スル．浸潤ノ及ブ範圍ハ種々デアツテ，狹小ナルモノヨリ肺葉全體ニ擴大スルモノマデアル．之ヲ初期浸潤 Primärinfiltrierung (Redeker) ト呼ブ．初期浸潤ノ「レントゲン像ハ殆ンド構造ノナイ均等ナ陰翳ヲ示シ，周圍ノ健康肺組織ニ對シテ明カナ境界ヲ示サナイ．浸潤ガ擴大スレバ全葉性トナリ，多ク尖端ヲ肺門部ニ向ケタ扇狀ノ三角形陰翳ヲ作ル．

次ニ原發竈ニ於ケル結核菌ハ，淋巴道ヲ介シテ其ノ支配下ニ於ケル淋巴腺ニ到達シ，此處ニ第二次的ニ結核竈ヲ形成スル．結核病變ヲ蒙ツタ淋巴腺ハ屢々菌毒素ノ爲メニ起ツタ周圍浸潤ヲ伴フ．之ヲ Perihiläre Sekundärinfiltrierung (Re-

deker), Perihiläre Infiltrate (Kleinschmidt) ト稱スル.

時ニハ一肺葉ノ全部, 或ハ更ニ進ンデ他肺葉ニマデモ及ブ廣汎ナル浸潤ノ現ハレル事ガアリ, 6—7歳マデノ小兒ニ特ニ多ク見ラレル. Epituberkulose (Eliasberg-Neuland), Paratuberkulose (Engel) ト稱セラレルモノモ此ノ淋巴腺竈ヲ周ル續發性浸潤ノ像ニ外ナラヌ.

初感染結核ノ「レントゲン檢査ニ際シテ, 屢々初期浸潤ト續發性浸潤トガ相融合シテ肺野ヲ横又ハ斜ニ横切ル大ナル陰翳トシテ見ラルヽ事ガアル. 此ノ大葉性浸潤ハ, 時日ノ經過ト共ニ其ノ中央部陰翳ガ漸次消褪シ, 遂ニハ側方ニ存スルモノト肺門周圍ニ存スルモノトノ2個ノ陰翳ニ分レ, 兩者ハ細キ索狀陰翳ヲ以ツテ連繫セラルヽニ至ル.

前者ハ底邊ヲ側方ニ有スル三角形ヲ呈スル故ニ之ヲ側方三角 Latrales Dreieck ト稱シ, 之ニ對シテ內側ノモノハ內方三角 Mediales Dreieck (Sluka, Fisher) ト呼ブ.

此ノ時期ガ所謂 Stadium d. Bipolarität (Redeker) デアル.

兩極ノ一ハ卽チ初感原發竈デアリ, 他ハ肺門淋巴腺腫脹並ニ其ノ周圍浸潤デアツテ, 此ノ兩極期ニ見ル像コソ初期變化群ノ現ハス最モ美麗ナル「レントゲン像デアル. 然シ云フ迄モナク肺ハ立體デアリ, 原發竈ノ位置ニ依ツテハ, 縱隔竇陰翳等ニ蔽ハレテ發見出來ズ, 或ハ續發性浸潤ト區別ノツケ難イ場合モアリ, 上記ノ如キ特異ナル兩極像ニ遭遇スル事ハ寧ロ少數デアル.

結核初感染ニ際シテ, 肺門部淋巴腺並ニ其ノ周圍組織ガ第二次的ニ病變ヲ蒙ル事ハ上ニ述ベタ. 此ノ肺門淋巴腺結核ヲ分ケテ一般ニ腫瘍型, 炎衝型, 肺門炎ノ三種ニ大別スル.

腫瘍型 Tumortypus ハ肺門淋巴腺ガ腫脹シテ乾酪樣變性ヲ呈シタモノデアツテ, 周圍浸潤ノ殆ンド伴ハナイモノデアル.

炎衝型 Entzündungsform ハ上述ノ Perihiläre Sekundärinfiltrierung ト同樣ノモノデアル.

次ニ肺門炎 Hilitis (Engel) ニ於テハ肺門部ヲ中心トシテ肺領域內ニ濃淡, 大小種々ノ陰翳ガ相錯綜シ, 其ノ均等度ハ炎衝型ノ場合ニ比シ遙カニ少ク, 且ツ複雜ナル構造ヲ示シテヰル. 之ハ肺門淋巴腺ノ病變ニ際シ, 附近ノ血管, 淋巴管, 氣管枝, 結締組織, 近接肺組織等ガ同時ニ結核機轉ヲ迎ルガタメニ起ル像デアル.

之等三ツノ型ノ淋巴腺結核モ初感染後比較的新シイ時期ニ見ラルヽモノデアル.

上來述ベタ樣ナ種々ナル像ガ初期症候群中ノ比較的新鮮ナルモノニ屬スルノデ, 我々ノ材料中之等ニ該當スルモノハ一括シテ軟性初期變化群ニ算入シタ.

成績ハ第1表ニ見ルガ如クデアツテ, 年度ニヨリ多少ノ變動ハアルガ, 全體トシテミルト男女略ボ同數デアル. 左右別モ男女略ボ同率デアツテ, 右側ガ左側ノ3倍强トナツテヰル.

第2表ハ全訪所者 (結核患者, 非結核性患者並ニ健康者ヲ總計セルモノ) 及全結核ニ對スル軟性初期變化群ノ百分率ヲ示シタモノデアル.

第3表ハ3年間ノモノヲ合計シテ年齡別ニ觀察シタ結果デアルガ, 男女ニ於テ大差ナク, 年齡デハ5歳ヨリ9歳迄ノモノガ他ニ比シテ遙ニ多イノハ, 結核初感染ガ此ノ年齡ヨリ漸次多ク

第 1 表　軟性初期變化群

年度	男		男計	女		女計	男女計
	左	右		左	右		
10 年度	28	66	94	16	43	59	153
11 年度	35	118	153	37	134	171	324
12 年度	21	90	111	18	80	98	209
累計	84	274	358	71	257	328	686

第 2 表　全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル軟性初期變化群ノ百分率

♂實數 358人	%	♀實數 328人	%	♂＋♀實數 686人	%
男子全訪所者 12144人ニ對シ	2.9	女子全訪所者 13616人ニ對シ	2.4	全訪所者(♂＋♀) 25760人ニ對シ	2.7
男子全結核 3279人ニ對シ	10.9	女子全結核 3637人ニ對シ	9.0	全結核(♂＋♀) 6916人ニ對シ	9.9

第 3 表　年齢別ニ見タル軟性初期變化群

年齢	男		女		男女計	男女總數ニ對スル%
	實數	男總數ニ對スル%	實數	女總數ニ對スル%		
0 — 4	30	8.4	31	9.5	61	8.9
5 — 9	155	43.3	132	40.2	287	41.8
10 — 14	110	30.8	108	32.9	218	31.7
15 — 19	52	14.5	45	13.7	97	14.1
20 — 24	11	3.0	12	3.7	23	3.4
25 — 29	0	0	0	0	0	0

ナルノニ原因スルコトハ勿論デアラウガ，他方又幼年期ニ於ケル初感染時ノ自他覺症狀ガ，其レ以上ノ年齢ノモノニ比シテ一般ニ著明デアルノデ，自然醫師ノ門ヲ敲クモノガ多イ理デアルシ，又醫師ノ側カラ言ヘバ所見ガ著明デアルカラ比較的容易ニ發見シ得ル等ノ理由ニ依ルモノデアル．

25歲以上ノモノニ皆無ナノハ，コレ以上ノ年齢ノモノニモ結核初感染ガ往々アリ得ルノデアルガ，幼年ノモノニ比シテ全身症狀ガ輕微ナルタメニ醫診ヲ乞フモノガ少數デアルシ，且ツ周圍浸潤等ノ如キ局所症狀モ著明ニ出現スル事ガナイノデ，看過サレル事モ少クナイノニ原因シテキルト考ヘラレル．

(B) 硬性初期變化群

前項ニ述ベタ軟性初期變化群ガ，治癒ノ傾向ヲ辿レバ時間ノ經過ト共ニ漸次吸收セラレテ消失スルカ，或ハ瘢痕化シテ硬結シ蜂窩樣ノ「レントゲン陰翳ヲ呈スルカ，又ハ石灰化竈ニ變ジテ行ク．初感染病竈群ノ石灰化シタル像ヲ一般ニ硬性初期變化群ト稱ヘル．

石灰化シタル原發竈ハ，「レントゲン學的ニハ普通豌豆大，乃至小豆大ノ極メテ鮮銳，濃厚ナル斑影トシテ認メラレル．普通1個乃至2個デアルガ稀ニハ數個ヲ見ル事モアル．

上述ノ石灰化機轉ハ又同樣ニ肺門部淋巴腺竈ニ於テモ行ハレルモノデ，之等兩極ニ在ル石灰化竈ハ屢々數條ノ索狀陰翳ヲ以ツテ連繫セラレ，又所々微小ナル石灰化斑點ガ點綴スルノヲ見ル事ガアル．

索狀陰翳ハ卽チ Lymphangitis tbc. ノ爲メニ起ツタ結締織ノ增殖ニ由因スルモノデアリ．石灰化小斑點ハ肺臟內淋巴腺ガ結核機轉ヲ蒙ツタ事ヲ物語ルモノデアル．

以上ハ「レントゲン檢査ニ際シテ見得ル硬性初期變化群ノ定型的ナル像デアルガ，旣述ノ如ク初發竈ハ全ク吸收セラレテ消失スルコトアリ，尙ホソレガ所在スル位置ニヨツテハ，縱隔竇陰翳其ノ他ニ蔽ハレテ發見出來ナイコトモアリ，更ニ又其ノ甚ダ微小ナモノニアツテハ，單ナル透視上ノ檢査デハ屢々之ヲ看過スル事モアル．從ツテ上記ノ如キ美麗ナル兩極石灰化像ヲ發見スルコトハ寧ロ少數デアツテ，單ニ肺門淋巴腺竈ヲノミ認メ得ルモノノ方ガ遙ニ多イ．

然シ我々ハ局所淋巴腺竈ガ存在スル限リハ，イヅレカニ原發竈モ潛在スベキデアルトノ病理解剖學上ノ一般通則ニ從ツテ，單ナル「肺門淋巴腺結核」乃至「肺門淋巴腺腫脹」ノ如キ名稱ヲ

棄テヽ，凡テヲ硬性初期變化群ノ中ヘ一括スルコトヽシタ．

硬性初期變化群ハ勿論成人ニ於テモ屢々之ヲ見得ルノデアルガ，我々ハ成人ニ於ケル初期變化群ノ發見率ノ如キヲ目的トシテ「レントゲン檢査ヲ行ツテキナカツタノデ，健常成人ニ於ケル此ノ種ノ所見ハ屢々不問ニ附シテアマリ「カルテ」ニハ記載シテキナイ．今ニ至ツテ之ヲ甚ダ遺憾ニ思フノデアルガ，只乳幼兒，學齡期兒童ヨリ思春期前後ニ至ルマデノモノノ「レントゲン檢査ニ當ツテハ，些細ノ病的變化ニモ細心ノ注意ヲ怠ラナカツタノデ，此ノ年齡ニ於ケル此ノ種變化ノ發見率トシテハ，比較的正鵠ニ庶幾キモノアランカト信ズル．

最後ニ駄足ノ事乍ラ，肺門部ノ「レントゲン像ハ既ニ正常ニ於テ多種多樣デアリ，一定ノ像型ヲ規定スル事ハ困難ナル事實ト相俟ツテ，肺門淋巴腺結核ノ診斷ニ對シテハ特ニ愼重ナル態度ヲ必要トスルモノデアリ，且ツ「レントゲン手技ニ於テモ相當ノ習熟ヲ經ナケレバナラヌ．

我々モ又其ノ始メニ當ツテハ，數ケ月ノ日子ヲ費シ，多數ノ兒童ニ就テ「ツベルクリン反應，既往症，家族歷等ヲ參考トシテ倦マザル習練ヲ積ンダモノデアリ，此ノ部ノ「レントゲン診斷ニ對シテハ些カ自負スルトコロガアル．

石灰化原發竈ヲモ同時ニ認メ得タモノハ第4表ニ纒メタ．其ノ數ハ單ニ局所淋巴腺竈ノミヲミルモノニ比シ約⅛ニ過ギナイ．(第5表參照)

尙ホ右側ハ左側ノ2倍以上ニナツテキル．

次ニ第5表ハ肺門淋巴腺竈ヲノミ見ルモノデアルガ，女子ニ於テ稍ヤ多ク，病側別ハ男女共略ボ同率デアル．兩側ノ場合ハ最初ノ罹患側カラ他側ヘ病機ガ轉移シタモノデアルガ孰レガ最初ノ患側デアルカハ決定シ得ナイ．

第6表ハ全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル硬性初期變化群ノ百分率ヲ示シタモノデアル．

第7表ハ上揭凡テノモノヲ一括シ，更ニ男女ヲ合計シテ左右別ニ觀察シタノデアルガ，左側ハ發見率ハ右側ノ約⅙ニ過ギズ，更ニ兩側ノモノニ至ツテハ遙ニ少數デアル．

病理解剖學上初感染竈ガ右側殊ニソノ上葉ニ最モ多ク占位スルノハ事實デアルガ，X線檢査上デハ左側ノ淋巴腺竈ノ如キハ心臟陰影等ニ妨ゲラレテ時ニ發見困難ナルコトアリ，左右發見

第 4 表　硬性初期變化群（兩極石灰化像ヲ見ルモノ）

年度	男		男計	女		女計	男女計
	左	右		左	右		
10 年度	1	4	5	6	8	14	19
11 年度	7	31	38	10	24	34	72
12 年度	13	23	36	13	25	38	74
累計	21	58	79	29	57	86	165

第 5 表　硬性初期變化群（局所淋巴腺竈ノミヲ見ルモノ）

年度	男			男計	女			女計	男女計
	左	右	兩側		左	右	兩側		
10 年度	20	156	9	185	37	187	9	233	418
11 年度	40	164	18	222	51	215	21	287	509
12 年度	23	113	11	147	22	165	24	211	358
累計	83	433	38	554	110	567	54	731	1285

第 6 表　全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル硬性初期變化群ノ百分率

♂實數 633人	%	♀實數 817人	%	♂＋♀實數1450人	%
♂全訪所者 12144人ニ對シ	5.2	♀全訪所者 13616人ニ對シ	6.0	全訪所者(♂＋♀) 25760人ニ對シ	5.6
♂全結核 3279人ニ對シ	19.3	♀全結核 3637人ニ對シ	22.4	全結核(♂＋♀) 6916人ニ對シ	20.9

第 7 表　♂♀＋病側別

左	右	兩側
243(18.1%)	1114(76.8%)	92(5.1%)

率ノ差違ハ實際ヨリモ遙ニ大キイト考ヘラレル．軟性初期變化群ノ場合ニ於テハ左右ノ比ハ大約1：3トナツテヰル事ハ前項ニ述ベタ通リデアル．

第 8 表　硬性初期變化群年齡別表

年齡	♂			♀			計	總數ニ對スル%
	左	右	兩側	左	右	兩側		
0 — 4	1	0	0	0	1	0	2	0.1
5 — 9	11	92	7	21	71	9	211	14.6
10 — 14	29	125	17	34	180	19	404	27.9
15 — 19	24	69	7	22	146	12	280	19.2
20 — 24	10	52	3	15	143	6	229	15.8
25 — 29	3	40	1	15	109	0	168	11.6
30 — 34	2	20	0	5	51	4	82	5.7
35 — 39	2	13	1	2	18	0	36	2.5
40 — 44	0	6	0	4	11	0	21	1.4
45 — 49	0	10	0	1	1	0	12	0.8
50 — 54	0	3	0	0	2	0	5	0.3
55 — 59	0	0	0	0	0	0	0	0
60 — 64	0	0	0	0	0	0	0	0
65 — 69	0	0	0	0	0	0	0	0
70 以上	0	0	0	0	0	0	0	0

第8表ハ3年間ヲ合計シテ，之ヲ年齡別ニ觀察シタモノデアル．全數1450人ヲ通ジテ4歲ノモノガ2人アルガ，之ハ或ハ石灰化竈デハナク，比較的新シイ所謂腫瘍型ニ屬スルモノデアツタカモシレナイ．乳幼兒殊ニ3歲未滿ノモノニアツテハ，其ノ移動範圍ガ狹イカラ結核感染ノ機會ハ甚ダ尠イト考ヘラレ，モシ感染ノ機會アリトスレバ其ノ殆ンド大部分ハ家族內デ行ハレルモノデアツテ，從ツテ多ク頻回濃厚ナル感染ヲ受ケルモノト謂フベク，抵抗力少キ乳幼兒ニアツテハ比較的迅速ナル經過ヲトツテ斃レルモノガ多ク，治癒ノ傾向ヲ示スモノハ甚ダ罕デアル．前揭ノ如ク軟性初期變化群ノ像ヲ示スモノハ4歲以下ニ於テ旣ニ61人(全數ノ1/6)ヲ數フルニ拘ラズ，硬性初期變化群ニ至ツテハ殆ンド皆無ナノハ，此ノ年齡ニ於ケル初感染結核ガ如

何ニ不良ノ經過ヲ辿ルカヲ甚ダ雄辯ニ物語ツテキルモノト謂ヘル.

5歳ヨリ9歳ニ至ツテ急ニ增加シ, 10歳ヨリ14歳マデノ間ニ於テ頂點ニ達シ, 以後再ビ漸減シテキル. 軟性初期變化群ハ5歳ヨリ9歳マデノ間ニ於テ最高値ヲ示シテキルガ, 硬性初期變化群デハ一階段遲レテ最高値ヲ示シテキル. 卽チ軟性ガ硬性ニ變ズルマデノ時間的差違ガ表ハレテキルワケデアル.

成人以後ノモノガ少數ナノハ, 檢査人員ノ多クナイノニモ原因シテキルガ, 一ツハ前ニモ述ベタ樣ニ, 吾々ハ成人ニ於テ硬性初期變化群ノ如キヲ發見シテモ, 多ク意義少キモノトシテ不問ニ附シ, 「カルテ」ニ記載シナイ場合ガ多カツタノニモ由ルノデアル.

第2節 肺ノ第二次結核

玆ニ第二次肺結核ト稱スルノハ, Ranke ノ第二期乃至第三期ニ屬スル結核ヲ指スモノデアルコトハ前言シタ通リデアル.

之ヲ更ニ限局型 lokalisierende Form ト蔓延型 Generalisierende Form ノ二種ニ大別シ得ル.

前者ハ Ranke ノ第三期結核ニ相當スルモノデ, 病竈ガ一定ノ內臟ニ限局シテ蔓延スル傾向ノ少イモノデアリ, 所謂孤在性臟器結核 isolierte Organtuberkulose ト稱スルノガ之デアル.

後者ハ Ranke ノ所謂第二期ノ著明ナ型ニ屬スルモノデ, 病機ガ比較的急性ノ經過ヲトツテ全身ニ蔓延セントスル傾ヲ示スモノヲ言ヒ, 血行性播種結核, 全身粟粒結核等ハ之ニ相當スル. 從ツテ本項ニ於テハ, 我々ノ捉ヘ得タ限リニ於テ蔓延型結核ノ一分症タル肺結核ヲ限局型肺結核ニ對立セシメテ觀察スル事トシ, 之ヲ血行撒布性肺結核トシタ.

(A) 血行性撒布性肺結核

從來血行性肺結核トシテ他ノ肺結核トハ劃然ト區別サレタモノニ, 全身粟粒結核ノ一分症タル粟粒肺結核ガアル. 然シコノ特異ナル症狀乃至經過ヲ示ス急性粟粒肺結核ノ外ニ, 慢性ノ經過ヲトリ, 時ニハ極ク僅カノ肺部分ガ侵サルヽニ止マルモノガアリ, 或ハ又全ク消失治癒スル型ノ粟粒肺結核ノ存スルコトガ, 最近主トシテ臨床家ノ側カラ盛ンニ報告セラルヽニ至ツテ, 在來ノ所謂粟粒結核ニ對スル考ハ餘程變ツテ來タ. 更ニ又近年 Löwenstein 其ノ他ニ依ツテ結核ニ於ケル菌血症 Bazillämie ノ檢索ガ盛ニ行ハレ, 殊ニ重症肺結核ノ場合ニアツテハ多數例ニ於テ之ヲ證明スルモノデアルコトガ報告セラレテキルガ, 而モ臟器結核ヲ呈スル肺結核ニ血行性轉移ヲミルコトノ稀ナル事實カラ考ヘテ(約2%), 單ニ流血中ニ結核菌ガ存在スル事ノミデ血行性轉移ガ成立スルモノデハナク, ソレニハヤハリ一定ノ臟器免疫ナリ或ハ「アレルギー」ナリヲ假定シナケレバナラナイ. 我々ハ結核ノ過敏症期卽チ Ranke ノ第二期ニ於テ最モ屢々血行性播種肺結核ニ遭遇スルコトヲ知ツテキル. 此ノ事實ハ前記ノ「アレルギー說 (Liebermeister, Huebschmann) ニ最モヨキ根據ヲ與フルモノデアルガ, 然シ又一方血行性結核ノ盡クガ Ranke ノ第二期ニ發生スルモノデハナク, 結核感染經過中ノ何レノ時期ニモ來リ得ルトナス報告ガ相次イデ發表サルヽニ及ンデ, 事態ハ甚ダ紛糾錯雜スルヲ免レナイノデアルガ, コレモ Redeker 等ノ言フ如ク, 第二期及第三期アレルギー」ハ固定性ノモノデハナク互ニ可逆性ノモノナリトスル說ヲ承認スレバ, 一應ノ說明ハツク樣デアル. 血行性播種結核ガ成立スルタメニハ, ソレガ由ツテ來ルトコロノ原病竈ガナケレバナラナイ. 小兒ノ場合ニ於テハ時ニ直接結核病竈カラ移行スル場合モ考ヘラレテハキルガ (Weigert), 大多數ノ例ニ於テハ初感原發竈カラ局所淋巴腺ヲ經テ, 淋巴管ヲ靜脈角カラ上空靜脈ニ入ルト云フ機轉ガ明カニナツテキル.

從ツテ此ノ場合ニ先ヅ結核菌ノ流入スルノハ肺臟血管デアリ, 玆ニ菌ノ數, 毒力, 個體ノ抵抗力等ノ相違ニヨツテ輕重廣狹樣々ナル播種像ヲ呈スルニ至ル. 之ヲ血行早期撒布性肺結核 hämatogene Frühstreuung ト稱スル.

之等ニ見ル「レントゲン像ハ, 其ノ後ノ種々ナル時期ニ來ル血行播種像ト大約異ルトコロガナイ. 只此ノ場合ニハ軟性初期變化群ノ像ヲ證

明スル事ガ出來，又側氣管腺ノ腫脹モ屢々認メ得ルト言ハレルガ，粟粒陰翳ノ稠密セルモノ殊ニソレラガ周緣性浸潤ヲ作ツタ場合ニアツテハ，其ノ中カラ軟性初期變化群ノ像ヲ拾ヒ上ゲル事ハ時ニ困難デアリ，年齡，症狀，經過，環境歷等ニヨツテソノ早期撒布タル事ヲ判定スルヨリ方法ノナイコトガ往々デアル．

次ニ成人ニ見ル粟粒結核ノ原發竈ニ關シテハ，前記ノ如ク靜脈角腺マデノ淋巴腺ノ病竈カラ菌ガ血液中ヘ流入スルト云フ說 (Ghon, Huebschmann) ト胸管內ニ起始竈ヲ見出スト云フ說 (Weigert) トノ二派ガアルガ，兎ニ角粟粒結核ノ成立ニハ體內ノイヅレカニ結核病竈ガ既存シテヲリ，コレヨリ血液中ニ菌ガ流入スル事ニ依ツテ起ルモノデアル事ハ論ヲ俟タナイガ，只此ノ際個體ガ適當ノ「アレルギー狀態ニアル事ガ必要ナル條件デアリ，且ツ身體ノ抵抗力ニ向ツテ低下的ニ作リ凡テノ生理的乃至病的因子ガ誘因トナルモノト考フベキデアツテ，之等ノ如何ニ依ツテ種々ナル病型乃至症狀ヲ呈スルモノデ，所謂 Typhobazillose ノ如キ激シイ症狀ヲ呈スルモノヨリ，中間型ト見做サルベキ急性全身性粟粒結核ヲ經テ所謂血行性播種性臟器結核ニ至ルマデ，經過並ニ症狀ニ種々ナル段階ガアリ，部位的ニ見テモ兩側全肺ニ亘ツテ一樣ニ結節形成ヲミルモノカラ，單ニ片側肺ノミニ限局スルモノ，兩側上葉ニノミ見ル場合，更ニ又肺尖部ダケニ限ラレテヰル場合等侵襲範圍ガ廣狹樣々デアル．

因ニ所謂 Tuberkulosis fibrosis diffusa 或ハ fibrosa densa (Neumann) ト稱セラレル型ノ肺結核モ元々血行性撒布結核ヲ素地トシテ出來タモノト考ヘラレテヰルガ，之等ニ於テハ播種像ハ失ハレ，既ニ肺癆ニ移行シタモノデアルカヲコノ項目ニハ入レテヰナイ．

最後ニ主トシテ上肺野ニ數個或ハ其レ以上ノ大小種々ナル石灰化竈ヲ見ル事ガアルガ，之ハ多數發生セル粟粒結節ノ大部分ガ吸收セラレ，少數ノモノノミガ石灰化シテ遺殘シタモノト解セラレテヰル．吾々モ斯ノ如キ數例ヲ經驗シテヰルガ，之等モ一括シテ本項ニ算入シタ．

成績ハ第9表ニ見ル如クデアツテ，3年間ヲ通ジテ僅々33例ヲ經驗シタニ過ギナイ．

第9表　血行性撒布性肺結核

年度	男			男計	女			女計	總計
	左	右	兩側		左	右	兩側		
10年度	0	0	2	2	2	0	1	3	5
11年度	1	0	1	2	1	0	4	5	7
12年度	1	1	3	5	0	4	12	16	21
累計	2	1	6	9	3	4	17	24	33

然シ實際ニ於テハ，血行性播種結核ノ頻度ハ，遙ニ多イモノト察セラレルノデアルガ，之等ノ中急性ノ經過ヲ辿ルモノハ，一般ニ全身症狀ガ激シイ爲メニ，健康相談所ノ如キヲ訪レルモノガ少ク，多クハ開業醫家ノ手ニ委ネラレルモノト考ヘラレル．

片側性ノモノニ比シ兩側性ノモノガ遙カニ多イノハ，其ノ發生機序ヨリ考ヘテ當然ノ事デアラウ．女性ガ男性ニ比シテ甚ダ多イノハ特異ニ感ゼラレル．片側性ノモノノ全部ガ血行性デアツタカ否カニ關シテハ吾々ハ確信ヲ有サナイ．病理標本ヲ肉眼的ニ觀察シテモ，其ノ撒布像ガ血行性ノモノカ氣管枝性ノモノカ區別シ難イ場合ガアルト言ハレルカラ，況シテ「レントゲン

像ノミニヨツテ，此ノ兩者ヲ鑑別セントスル事ノ如何ニ困難ナルカハ想像ニ難クナイ．第10表ハ全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル血行性撒布性肺結核ノ百分率ヲ示シタモノデアル．

第11表ハ全部ノモノヲ年齢別ニ見タモノデアルガ，思春期以前ノモノガ遙カニ多イ．

第10表　全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル血行性撒布性肺結核ノ百分率

♂實數 9人	%	♀實數 24人	%	♂＋♀實數 33人	%
男子全訪所者 12144人ニ對シ	0.1	女子全訪所者 13616人ニ對シ	0.2	全訪所者(♂＋♀) 25760人ニ對シ	0.1
男子全結核 3279人ニ對シ	0.3	女子全結核 3637人ニ對シ	0.7	全結核(♂＋♀) 6916人ニ對シ	0.5

第11表　年齢別ニ見タル血行性撒布性肺結核

年齢	男		女		男女計	男女總數ニ對スル%
	實數	男總數ニ對スル%	實數	女總數ニ對スル%		
0 — 4	2	22.2	2	8.3	4	12.1
5 — 9	1	11.1	5	20.8	6	18.2
10 — 14	0	0	7	29.1	7	21.2
15 — 19	1	11.1	3	12.5	4	12.1
20 — 24	3	33.3	1	4.2	4	12.1
25 — 29	0	0	1	4.2	1	3.0
30 — 34	0	0	4	16.6	4	12.1
35 — 39	0	0	1	4.2	1	3.0
40 — 44	0	0	0	0	0	0
45 — 49	0	0	0	0	0	0
50 — 54	0	0	0	0	0	0
55 — 59	2	22.2	0	0	2	6.1
60 — 64	0	0	0	0	0	0

此ノ中，學齢期以前ノモノハ所謂早期血行性播種ニ屬スルモノデアツテ，多クハ腦膜炎等ヲ併發シテ不良ノ轉歸ヲトツテキル．

18歳ノ男子デ約1ケ年ノ經過ヲ觀察中，兩肺全面ニ撒布サレテキタ無數ノ小結節ガ漸次吸收セラレテ，遂ニハXフイルム」上其ノ痕跡ヲモ認メナイマデニ治癒シタ一例ヲ經驗シテキル．

(B)　限局型肺結核

前項蔓延型肺結核ニ對立スルモノデアツテ，之ヲ更ニ肺尖結核ト通常慢性肺癆ノ二ツニ分ケテ觀察シタ．

a)　肺尖結核

肺尖部ト云フモノヲ解剖學的ニ定義シヤウトスレバ，種々複雜ナ議論ガアルデアラウガ，我々ハ「レントゲン檢査ニ際シテ，管球焦點ヲ大約第5脊椎ニ置イタ際，水平鎖骨ヨリ上ニ見ル肺部ヲ「肺尖野」トシテ，其ノ範圍內ニ於ケル結核性變化ヲ肺尖結核トシタ．

肺ニ於ケル再感竈ノ好發部位ガ肺尖部デアル事ハ，從來一般ニ認メラレテキタトコロデアル．近時肺結核ノ起始竈トシテノ鎖骨下浸潤說，早期浸潤說ガ臨床家ノ側カラ盛ンニ唱ヘラレテキルガ，之等ノ所謂「新說」ノ如何ニ關ラズ，肺尖部ニ限局サレタ結核ハ明カニ存在スル．唯舊來「肺尖カタル」ナル診斷ガ甚ダ屢々用ヒラレタノニ比シテ，其ノ頻度ガ著シク少イモノノ樣ニ考ヘラレルノデアツテ，「レントゲン檢査ヲ用ヒズシテ此ノ種ノ診斷ヲ下スコトノ躊躇セラルヽ

所以デアル.

肺尖結核ト成人肺癆トノ發生論的因果關係ニ就テハ，病理解剖學者ト臨床家トノ間ニ上記ノ「新說」ヲ巡ツテ意見ノ相違ガアルノデアルガ，其等ニ關シテハ玆ニハ觸レナイ.

「レントゲン學的ニ最モ多ク見ラレルモノハ，肺紋理陰翳ヲ點綴スル種々ナル大イサノ點狀又ハ不整形ノ細葉性小葉性病竈ノ像デアル.

此ノ斑點樣陰翳ニ對シテ，瀰蔓性ノ陰翳ヲ形成スルモノヲ認メル事ガアルガ，之ハ上記ノ細葉性小葉性病竈ガ周圍浸潤ヲ伴ヒ，其レ等ガ廣ク融合シタ像デアル. 肺尖ニ於ケル肺炎竈ハ時ニ軟化シテ空洞ヲ形成スル事モ罕トシナイ. 然シ一般ニ我々ガ日常遭遇スル變化ハ，既ニ硬化性機轉ニ陷ツタ病竈ニ依ツテ現ハサルヽ像ガ多ク，或ハ舊イ病竈ノ間ニ尙ホ多少共新鮮ナ病竈ガ介在スルガ如キモノヲ見ル程度ニ止ル. 從ツテ個々ノ陰翳ノ邊緣モ比較的鮮明デ，病竈自身ノ陰モ濃イモノガ多イ. 更ニ進ンデ既ニ石灰化シタ像ヲ見ル事モ屢々アル.

Puhl 氏竈，Simon 氏竈ト稱セラルヽモノモ，血行性ニ起ツタ肺尖病竈ノ石灰化シタモノデアルト解セラレテキル.

第12表ニハ之等新舊，廣狹樣々ナル肺尖竈ガ一括シテ算入サレテキルワケデアル. 肺尖結核ノ數ハ年ト共ニ減少シテキル. 男子ハ女子ヨリモ稍ヤ多イ. 左右ノ比ハ男女合計シテミルト右側ガ左側ノ約3倍トナツテキル. 之ハ前ニ述ベタ軟性初期變化群ニ於ケルト略ボ同樣ノ關係ヲ示シテキル. 兩側性ノモノハ左側ノモノヨリモ更ニ少イ.

第13表ハ全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル肺尖結核ノ百分率ヲ示シタモノデアル.

第14表ハ凡テノモノヲ合計シテ年齡別ニ見タモノデアルガ，14歲以前ハ少數デアツテ而モ女子ニ於テ男子ノ約2倍ヲ示シテキル.

15歲ヲ過ギルト急激ニ增加シ，男女共20歲ヨリ24歲マデノ間ニ於テ最多數ヲ占メテキル.

尙ホ上述セル如ク，全數ニ於テ女子ハ男子ヨリモ少イニ拘ラズ，所謂結核年齡ト稱セラルヽ15歲ヨリ24歲マデノ間ニ占メテキル數ハ女子ニ於テ却テ多イ. 其レ以後ノ年齡ニ於ケル肺尖結核ノ數ハ，女子ニアツテハ比較的急ニ減少シテキルガ，男子ニ於ケル減少ノ樣子ハ稍ヤ緩慢デアル.

卽チ思春期前後ニ於ケル肺尖結核ノ出現率ハ，男子ヨリモ女子ニ於テ多ク，成年期以後ハ男子ニ多イト云フ結果ヲ示シテキル.

第12表　肺　尖　結　核

年度	♂ 左	♂ 右	♂ 兩	♂ 計	♀ 左	♀ 右	♀ 兩	♀ 計	總計
10 年度	30	99	16	145	16	72	15	103	248
11 年度	17	61	12	90	25	53	19	97	187
12 年度	19	41	9	69	19	38	9	66	135
累計	66	201	37	304	60	163	43	266	570

第13表　全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル肺尖結核ノ百分率

♂實數 304人	%	♀實數 266人	%	♂＋♀實數 570人	%
♂全訪所者 12144人ニ對シ	2.5	♀全訪所者 13616人ニ對シ	2.0	(♂＋♀)全訪所者 25760人ニ對シ	2.2
♂全結核 3279人ニ對シ	9.3	♀全結核 3637人ニ對シ	7.3	(♂＋♀)全結核 6916人ニ對シ	8.2

第14表　年齢別ニ見タル肺尖結核

年齢	♂			♂計	♂總數ニ對スル%	♀			♀計	♀總數ニ對スル%	♂＋♀計	♂＋♀總數ニ對スル%
	左	右	兩側			左	右	兩側				
0 — 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 — 9	2	0	0	2	0.7	0	2	0	2	0.7	4	0.7
10 — 14	2	7	1	10	3.3	7	13	2	22	8.2	32	5.6
15 — 19	12	39	3	54	17.8	11	47	11	69	25.8	123	21.5
20 — 24	16	38	9	63	20.7	20	39	12	71	26.6	134	23.5
25 — 29	19	37	5	61	20.1	7	18	7	32	12.0	93	16.3
30 — 34	4	22	5	31	10.2	8	11	5	24	9.0	55	9.6
35 — 39	5	16	4	25	8.2	3	14	0	17	6.4	42	7.4
40 — 44	4	15	3	22	7.3	3	6	0	9	3.4	31	5.4
45 — 49	1	11	3	15	4.9	2	6	0	8	3.0	23	4.0
50 — 54	0	5	1	6	1.9	1	0	1	2	0.7	8	1.4
55 — 59	1	9	1	11	3.6	0	6	0	6	2.2	17	2.9
60 — 64	0	2	0	2	0.7	0	1	1	2	0.7	4	0.8
65 — 69	0	0	2	2	0.7	0	0	3	3	1.2	5	0.9
70 以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	66	201	37	304	100.0	62	163	42	267	100.0	571	100.0

b) 通常慢性肺癆

肺ノ第二次結核ハ，一般ニ肺尖部ニ現ハレル再感竈 Reinfekt ヲ基地トシテ，漸次他ノ部分ニ蔓延擴大スルモノデアル事ハ，從來一般ニ承認セラレテキタノデアルガ，近時肺結核ハ肺尖以外ノ部ヨリ始マルト云フ所謂 Neulehre ガ Simon, Assmann, Romberg, Redeker, Ulrici 等ノ臨床家ニヨツテ盛ンニ唱導セラレテ以來，成人肺癆發生觀ハ肺尖起始說ト早期浸潤說トノ二ツヲ巡ツテ論爭ガ盡キナイ．

又再感竈ノ成立ニ關シテモ，極端ニ外因說 (Aschoff 一派) ヲ奉ズルモノト，內因說 (Huebschmann, Ghon) ヲ主張シテ讓ラザルモノトアリ，之等ハ今後ノ結核學者ニ殘サレタ興味アル研究命題デアルガ，本編デハ肺癆發生ノ機序ニ對スル考察，又ハ夫等ニ關スル諸說ヲ論議スル事ハ本來ノ目的デハナイカラ，玆ニハ凡テ之ヲ省略スル．

次ニ肺結核ノ分類ニ關シテハ，病理解剖學的觀察ニ主點ヲ置イタモノト，臨床所見ヲ主眼トシタモノトノ二樣ガアリ，Aschoff, Neumann, Gräff u. Küpferle, Bard, Bräuning, Pagel-Henke, 熊谷等ノ代表的ナモノヲ始メトシテ數多クノ案ガ發表サレテハキルガ，何レモ一長一短アリ，簡ニシテ尙ホ且ツ病狀ノ全貌ヲ窺フニ足ル樣ナモノハ無イ樣デアル．

我々ハ玆ニハ便宜上內藤(益一)氏ノ分類法ニ準據シタ．但シ同氏ノ分類規定ハ病竈ノ廣サニヨル分類，性狀ニヨル分類，病狀ノ傾向ニヨル分類ノ三種カラナツテオリ，之等ヲ互ニ組ミ合セルコトニナツテキルガ，健康相談所ノ如キ唯1回ノ訪所患者ノ多イトコロデハ，疾病ノ性狀乃至ハ傾向ヲ的確ニ定メル事ハ困難デアルノデ，此ノ中ノ病竈ノ廣サニヨル分類ノミヲ採用シタ．方法ハ次ノ如クデアル．

病竈ノ廣サニヨル分類

(イ) 限局性(lokalisiert)

片側ニノミ片側全肺野 1/3 ヲ超エザル程度ノ陰影ヲ見ル場合．

但シ同時ニ同側又ハ他側肺門部ニ線狀若クハ索狀ヲ呈シ，或ハ直徑約 3 mm 以下ノ陰影或ハ其ヨリ大ナルモ緣邊甚シク鮮明且ツ濃度モ强クシテ明カニ石灰化竈

ト思ハレル陰影ノ存在スルヲ妨ゲズ.

(ロ) 片側性 (einseitig)

前者ヨリハ廣キモ尙ホ片側以内ニ限ラレル場合. 但書ハ前項ニ同ジ.

(ハ) 兩側性 (beiderseitig)

左右兩肺共ニ種々ノ大キサ及ビ數個ノ陰影ヲ見ルモ尙ホ全肺野ニ亘ラザル場合.

(ニ) 全肺野性 (total)

全肺野ニ種々ノ大サノ陰影ヲ多數ニ見ル場合.

此ノ分類デハ肺ニ於ケル凡テノ結核性病變ヲ包含セシメテキルモノト解セラレルガ (但シ harter Primärkomplex ノ像ノミハ獨立セシメテキル), 前言セル如ク我々ハ初感染時肺結核ハ凡テ第一次肺結核トシテ項ヲ別ニシテ取扱ツテオリ, 又第二次肺結核ノ中デモ, 血行性撒布性結核竝ニ肺尖結核ハ各々獨立セシメテ觀察シタ.

尙ホ此ノ分類ハ, 上記ノ如ク單ニX線檢査ニヨル病竈ノ廣サニ依ツタモノデアルカラ, 其ノ性狀, 例之滲出性, 增殖性, 硬化性等ノ區別, 或ハ早期浸潤乃至後期浸潤ノ區別, 空洞ノ有無, 更ニ又開放性ナリヤ閉鎖性ナリヤ等ノ區別ハ一切不明デアリ, 病狀ノ傾向ニシテモ活動性, 非活動性, 進行性, 停止性, 潛伏性, 陳舊性等ノコトニ關シテハ一切窺ヒ得ナイモノデアツテ, 甚ダ粗雜タルヲ免レナイ.

第15表ハ此ノ分類法ニヨル成績ヲ年度別ニ觀タモノデアル. 全般的ニ見テ全肺野性乃至ハ兩側性ノ如キ, 一般ニ廣汎ナル病竈ヲ有スルモノノ率ガ年每ニ減少シ, 代リニ限局性小範圍ノモノガ增加シテキル傾向ガアル.

第15表 通常慢性肺癆

年度	♂ 限局性 左	♂ 限局性 右	♂ 片側性 左	♂ 片側性 右	♂ 兩側性 左>右	♂ 兩側性 左=右	♂ 兩側性 左<右	♂ 全肺野性	♂計	♀ 限局性 左	♀ 限局性 右	♀ 片側性 左	♀ 片側性 右	♀ 兩側性 左>右	♀ 兩側性 左=右	♀ 兩側性 左<右	♀ 全肺野性	♀計	總計
10年度	17	38	20	29	46	17	42	6	215	12	32	10	16	22	10	32	8	142	357
11年度	45	71	18	35	55	37	76	5	339	40	78	23	39	49	30	49	6	314	653
12年度	52	69	20	28	45	24	59	7	304	47	64	17	21	41	22	43	4	259	563
累計	114	178	58	92	146	78	177	18	861	99	174	50	76	112	62	124	18	715	1576

之ハ結核ノ早期發見ニ主力ヲ注ギ, 治療行爲ノ如キハ從トスル相談所本來ノ方針ノ理解ガ漸次一般ニ行キ亘リツヽアル證左トミラレル.

限局性ノモノヲ左右別ニミルト矢張リ右側ノモノガ多イガ, ソノ差ハ軟性初期變化群又ハ肺尖結核等ノ場合ニ見ル程大デハナイ. 之等ノ場合ハ約1:3デアツタ.

片側性ニ至ツテソノ差ハ更ニ縮少シテキル. 兩側性ノモノハ之ヲ更ニ左ガ右ヨリ廣イモノ, 左右同等ノモノ, 右ガ左ヨリ廣イモノノ三ツニ分ケテミタ.

但シ侵サレタル範圍ガ左右同等デアルカ或ハ多少ノ差ガアツテモ, 例ヘバ右側ノ所見ガ明カニ左側ヨリモ陳舊デ硬化乃至萎縮ニ傾イテオリ, 殊ニ硬壁性空洞ヲ有スルガ如キ場合ハ右側ノ病變ガ左側ニ先行シタモノト考ヘテ左<右ト記入シタ. 左>右ハソノ反對デアル.

此ノ場合ニ於テモ左<右ノモノガ左>右ノモノヨリ稍多イ.

左=右トアルハ, 病變ノ範圍ハ元ヨリ病竈ノ性狀乃至ハ新舊ノ度合等モ全ク同等デアツテ何レガ先後ト區別シ難イ場合ノ記號デアル.

左=右ノモノノ中ニハ兩側同時ニ血行性ニ始マツタモノガ相當多イノデハナイカト察セラレル.

尙ホ男子患者ガ女子患者ヨリ多イノハ從來ノ報告ト一致シテキル. 男子ハ仕事ノ性質上感染機會並ニ過激ノ勞務ニ服スル事ガ多イカラデア

ラウ.

第16表ハ全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル通常慢性肺癆ノ百分率ヲ示シタモノデアル.

第17表ハ全部ヲ合計シテ之ヲ年齡別ニ觀察シタモノデアル.

全體トシテミルト，14歳以下ノ第二次肺結核

第16表　全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル通常慢性肺癆ノ百分率

♂實數 861人	%	♀實數 715人	%	♂＋♀實數1576人	%
♂全訪所者 12144人ニ對シ	7.1	♀全訪所者 13616人ニ對シ	5.3	全訪所者(♂＋♀) 25760人ニ對シ	6.1
♂全 結 核 3279人ニ對シ	26.3	♀全 結 核 3637人ニ對シ	19.6	全 結 核(♂＋♀) 6916人ニ對シ	22.8

第17表　年齡別ニ見タル通常慢性肺癆

年齡	♂				♂計	♂總數ニ對スル%	♀				♀計	♀總數ニ對スル%	男女計	男女總數ニ對スル%
	限局	片側	兩側	全肺			限局	片側	兩側	全肺				
0－4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5－9	1	1	3	0	5	0.6	2	3	7	0	12	1.7	17	1.1
10－14	10	6	9	0	25	2.8	15	5	28	2	50	7.1	75	4.7
15－19	52	21	62	2	137	15.6	48	29	82	4	163	23.0	300	18 9
20－24	75	35	98	4	212	24.1	75	21	61	3	160	22.4	372	23.4
25－29	57	26	71	6	160	18.1	51	28	49	4	132	18.6	292	18.4
30－34	51	21	53	2	127	14.4	26	16	28	2	72	10.2	199	12.5
35－39	18	11	27	1	57	6.5	14	11	7	1	33	4.7	90	5.7
40－44	10	8	24	0	42	4.8	9	5	10	1	25	3.5	67	4.2
45－49	9	4	24	2	39	4.4	7	3	11	0	21	2.9	60	3.8
50－54	8	6	13	1	28	3.2	12	2	7	0	21	2.9	49	3.0
55－59	8	7	10	0	25	2.8	2	0	3	0	5	0.7	30	1.9
60－64	4	3	8	0	15	1.7	4	0	1	1	6	0.8	21	1.3
65－69	3	0	0	0	3	0.3	3	3	1	0	7	1.0	10	0.6
70以上	1	1	4	0	6	0.7	0	0	2	0	2	0.3	8	0.5
計	307	150	406	18	881	100.0	268	126	297	18	709	100.0	1590	100.0

ハ甚ダ少數デアル．コノ數字ハ10歳以下ノモノニ早期浸潤ノ如キヲ發見スル事ハ，比較的稀ナリトスル諸家ノ報告ヲ裏書キスルモノデアル．15歳以後急激ニ增加シ，コレヨリ24歳迄ノ間ニ於テ最高ヲ示シ，其ノ後ハ比較的緩徐ニ減少シテキル．

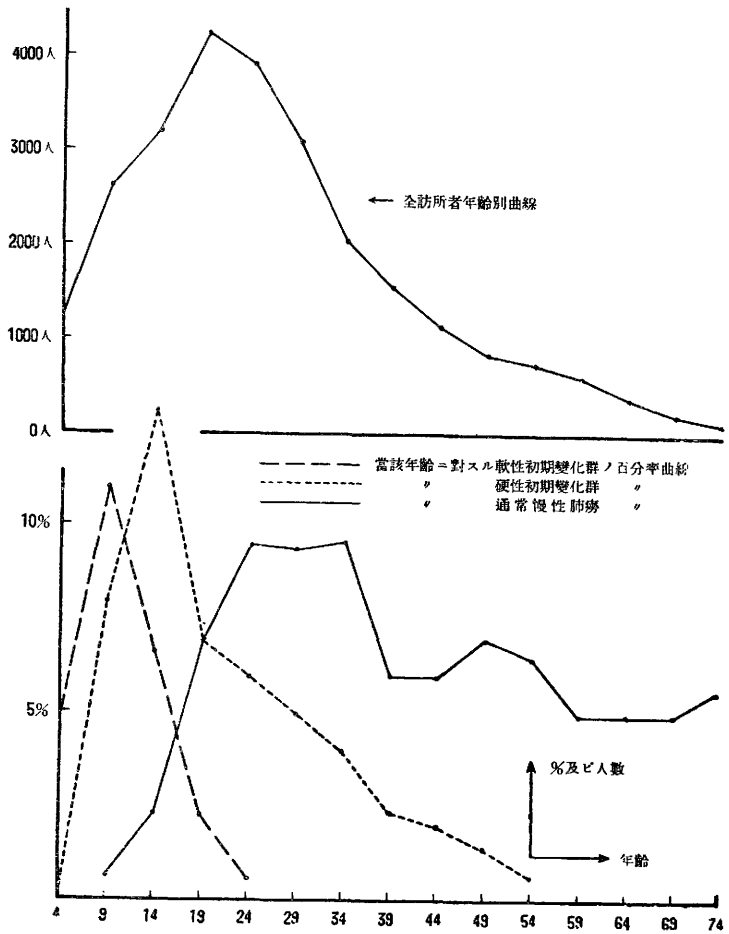
男子ニ於テハ，輕症重症ヲ通ジテ20歳ヨリ24歳ノ間ニ於テ最高値ヲ示シテキルガ，女子ニアツテハ些カ趣ヲ異ニシテキル．

即チ限局性ノ如キ比較的初期ニ屬スルモノデハ男子ニ於ケルト同樣ノ關係ニアルガ，片側性，兩側性乃至ハ全肺野性ノ如キ比較的進行セルモノハ，却テ15歳ヨリ19歳迄ノ間ニ於テ頂點ヲ示シテキルノハ注目ニ値スル．

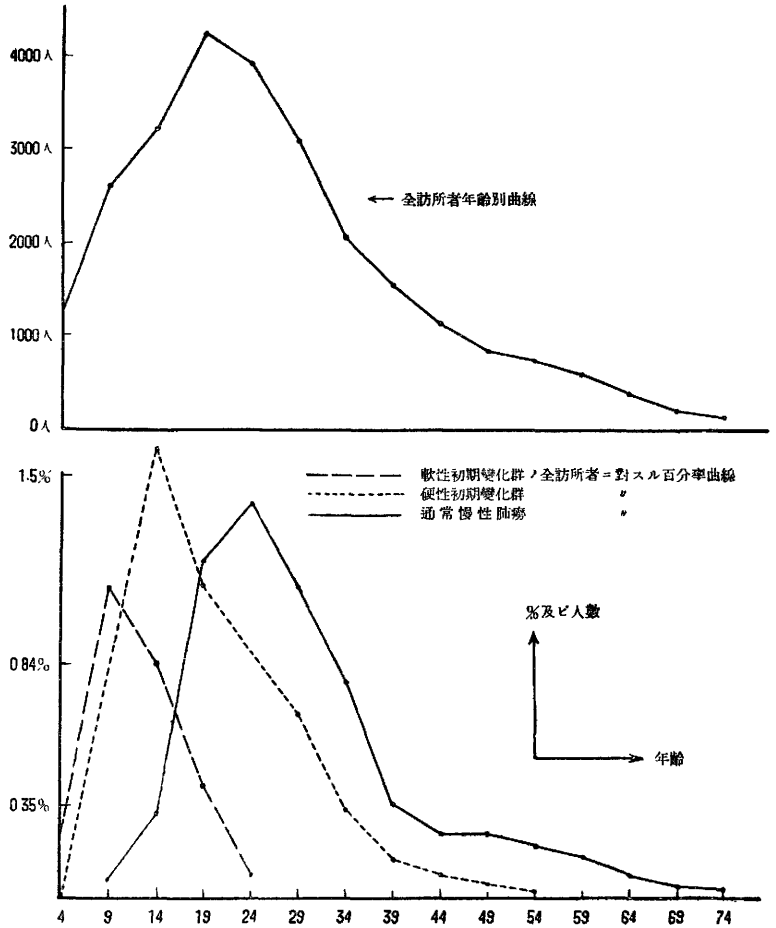
換言スレバ，女子ハ男子ヨリモ年若クシテ重症肺癆ニ陷ルモノガ多イト云フ結果ヲ示シテキル．此ノ事實ハ，單ニ兩性間ノ抵抗力ノ差違ノ如キヲ以テノミ說明シ得ルモノカ，或ハ尙ホ他ノ種々ナル因子ノ協力ニヨルモノデアルカハ，輕々ニ斷ジ難イノデアツテ，之等ノ點ニ關シテハ，更ニ職業，環境，家族歷，出生地等ヲ詳細ニ調査シテ，他日報告スルトコロアラン事ヲ期シテキル．

30歳以後ノ重症結核ハ女子ニ於テ男子ノ約半

第 1 圖


4000人
3000人
2000人
1000人
0人
← 全訪所者年齢別曲線
當該年齢ニ對スル軟性初期變化群ノ百分率曲線
〃 硬性初期變化群 〃
〃 通常慢性肺病 〃
10%
5%
%及ビ人數
年齢
4 9 14 19 24 29 34 39 44 49 54 59 64 69 74

第 2 圖


4000人
3000人
2000人
1000人
0人
← 全訪所者年齢別曲線
軟性初期變化群ノ全訪所者ニ對スル百分率曲線
硬性初期變化群 〃
通常慢性肺病 〃
1.5%
0.84%
0.35%
%及ビ人數
年齢
4 9 14 19 24 29 34 39 44 49 54 59 64 69 74

數ニ過ギナイ.

之ハ家庭婦人トシテ落着キヲ得レバ，其ノ感染機會又ハ心身ノ消耗，疲憊等ハ，男子ノソレニ比ブベクモナイ事實ヲ以テ說明シ得ルト考ヘラレル.

第1圖ハ當該年齡ニ對スル軟性初期變化群，硬性初期變化群並ニ通常慢性肺癆ノ百分率曲線ヲ一括シテ圖示シタモノデアリ.

第2圖ハ軟性初期變化群，硬性初期變化群並ニ通常慢性肺癆ノ全訪所者ニ對スル百分率曲線ヲ一括シタモノデアリ共ニ便覽ニ資シタツモリデアル.

第2章 肋 膜 炎

第1節 新鮮ナル肋膜炎

肋膜炎ト結核トノ關係ニ就テハ，小兒ノ場合ト思春期以後ニ於ケルモノトデ其ノ趣ヲ異ニシテキル. 乳兒及幼兒ニ見ル肋膜炎ハ多ク化膿性デアツテ，滲出性肋膜炎ノ甚ダ尠イコトハ周知ノ事實デアリ，シカモ此ノ化膿性肋膜炎ノ大多數ガ，非結核性ノモノデアル事モヨク知ラレテキル. 然ルニ學齡期ヲ過ギテ思春期ニ至ルニ從ツテ，化膿性肋膜炎ハ次第ニ影ヲ潛メ，之ニ代ツテ滲出性肋膜炎ガ漸增シテ來ル.

コノ場合ノ滲出性肋膜炎ガ，大部分結核性ノモノデアル事ハ，從來多クノ學者ニヨツテ證明サレテオリ，此ノ事ハ又兒童ノ「ツベルクリン反應陽性率ガ，年ト共ニ上昇スル事實ト照合シテモ肯ケルノデアル.

肋膜炎ハ結核感染經過中ノ如何ナル時期ニモ起リ得ルガ，Myerhofer ハ臨床上大體次ノ樣ニ分ケテキル.

(1) 初感染病竈時ニ於ケル肋膜炎

a) 初感原發竈ニヨル肋膜炎

初感原發竈 Primäraffekt ハ多ク肋膜下 Subpleural ニ位置シテキルノデ，ソレニ相當シタ場所ニ肋膜炎ノ起ル事ガ屢々アル.

多ク限局セル乾性肋膜炎デアツテ，其ノ部ニ摩擦音ヲ聽クコトガアル. 滲出性ノ場合ハ比較的少ク，縱令液ガ發生シテモ多クハ少量デアツテ，而モ肋膜腔內ヲ略ボ均等ニ充盈シツヽ肺臟周圍ヲ外套狀ニ包ンデキル. (Lamellaere Pleuritis) 液量ガ 250—300cc. ニ及ベバ，胸壁內面ニ沿フテ幅 1 cm 程度ノ所謂 Thoraxsaum ガ認メラレル. 然シ一般カラ言ツテ，此ノ原發病竈ニ伴フ肋膜炎ハ症狀一般ニ輕微デアリ，「レントゲン所見ノ如キモ明瞭ヲ缺クノデ看過サレル場合ガ少クナイ.

b) 所屬淋巴腺腫大ニ伴フ肋膜炎

之ハ「レントゲン檢査ノ進步ニ依ツテ，近年漸ク諸家ノ注意ヲ牽クニ至ツタモノデアルガ，侵サレタ淋巴腺ハ肺門又ハ縱隔膜附近ニアルカラ，此ノ部ノ肋膜炎卽チ後ニ述ブルトコロノ縱隔膜肋膜炎乃至葉間肋膜炎又ハ兩者合併ノ形デ來ル. 多クハ滲出性デアルガ，又時ニ乾性ノ事モアル. 前ニ述ベタ炎衝型肺門淋巴腺結核ニ合併シテ屢々此ノ型ノ肋膜炎或ハソレノ遺殘像ヲ見ル事ノアルノハ，X線檢査ニ携ルモノノ齊シク知ルトコロデアル.

(2) 結核第二期ニ現ハルヽ肋膜炎

Ranke ノ第二期卽チ血行性播種期ニ現ハレルモノデアツテ，青年期ノ所謂特發性肋膜炎ト稱セラルヽモノノ大多數ハ之ニ屬スル.

之ニモ限局性ニ來ルモノト肋膜ノ全面ニ亘ル廣汎ナルモノトガアル.

a) 結核竈ガ血行性ニ肺內ニ生ジタ場合ニ，其ノ部ニ限局シテ乾性肋膜炎ヲ起スコトガアル. コノ際ソノ部ニ限局性ノ摩擦音ヲ聽クモノデアルガ，時ニ甚ダ輕微デアツテ餘程精細ニ聽診ヲ行ハナイト之ヲ逸スルコトガアル.

b) 廣汎性滲出性肋膜炎

之ハ血行性播種ノ度ガ强ク，多數ノ結核結節ガ肋膜又ハ其ノ直下ニ生ジタ場合ニ現ハレルノデアルガ，又單ニ過敏狀態ニ陷レル肋膜ガ，結核毒素ノタメニ反應性炎症ヲ起シテ來ルコトモアル. 之ヲ Allergische Pleuritis ト稱スル. 此ノ型ノ肋膜炎ハ結核初感染後4乃至8ケ月ヲ經テ「アレルギー」ガ强マリ，肋膜ガ過敏狀態ニナツ

タ時期ニ現ハレルモノデ，從ツテ我國ニ於テハ青年層ニ多ク老人ニハ少イ．此ノ事ハ，本邦ニ於テハ青年期ニアツテモ尙ホ結核未感染者ノ比較的多イ事實ト考ヘ合セテ，容易ニ理解スルコトガ出來ル．

第二期肋膜炎ガ果シテ血行性播種ニ依ツテ起ツタモノデアルカ，或ハ純粹ニ「アレルギー性ノモノデアルカヲ決定スル事ハ，肋膜滲出液中ニ結核菌ヲ證明スルコトノ比較的高率ナル事實ト相俟ツテ，甚ダ困難デアルト察セラレル．

（3） 結核第三期ニ現ハレル肋膜炎

肺癆ノ合併症トシテ來ル肋膜炎デ，晩期肋膜炎或ハ隨伴性肋膜炎 Begleitpleuritis トモ稱スル．經過緩慢デ第二期ニ見ルモノノ樣ニ治癒ハ容易デナク，比較的强イ癒着乃至胼胝形成ヲ營ムモノガ多イ．尙ホ本統計ニ於テハ，明カナル肺病變ヲ示スモノハ其ノ部ニ算入シテ肋膜炎ノ中ヘハ入レテキナイ．

尙ホ肋膜炎ハ其ノ侵サルヽ部位ニヨツテ分ケルト，普通ノモノ卽チ胸壁肋膜ト肺臟肋膜トノ間ニ於ケル乾性乃至滲出性肋膜炎ノ外ニ，次ニ述ブルガ如キ所謂異型性肋膜炎ト稱セラルヽモノガアル．

（4） 異型性肋膜炎

a） 外套狀肋膜炎 Lamelläre Pleuritis

之ニ就テハ前ニ一言シタ．初感原發竈ノ影響ヲ受ケテ生ズルモノデアツテ，滲出液ハ普通ノ型ニ見ル如ク Damoiseau 氏曲線ニ一致シタ瀦溜ヲ示サズ，胸廓內面ヲ均等ニ充盈シテ所謂 Thoraxsaum ヲ形成スル．其ノ輕度ナルモノハ屢々看過シ易イ．

b） 包裹性肋膜炎 abgesackte s. abgekapselte Pleuritis.

肋膜炎ノ經過中殊ニ其ノ消褪期ニ於テ屢々局所ニ「フィブリン性ノ包裹ガ起ル．或ハ初期ニ於テ旣ニ包裹ノ起ルコトガアルガ，之ハ炎衝刺戟ノ强イ場合デアツテ化膿性ノモノガ多イ．

部位ハ多ク背部側方ニアリ，「レントゲン檢査ニ際シテハ包裹ノ大イサニ一致シテ雞卵大，半圓形或ハ紡錘狀ノ陰翳ガ澄明肺野ニ向ツテ突出シテキルノヲ見ル．

c） 横隔膜肋膜炎 Pleuritis diaphragmatica

他覺症狀ハ僅微デアツテ，病側横隔膜ノ擧上ト運動障碍ガ見ラレルトイフ．摩擦音，濁音等ハナイ．時トシテ少量ノ滲出液ガ肺基底部ニ溜ルコトガアルガ看過サレ易イ．此ノ型ノ肋膜炎ハ一般ニ稀ナモノト考ヘラレテオリ，我々モ的確ニ診斷ヲ下シ得タ例ヲ有サナイ．

d） 縱隔膜肋膜炎 Pleuritis mediastinalis.

屢々見ラレルモノデハナイ．滲出液ガ肺ト前乃至後縱隔膜トノ間ニ瀦溜スルノデアツテ，ソノ何レニ存在スルカニ依ツテ Pleuritis med. anterior ト Pleuritis med. posterior トニ分ケ得ラレル．一般ニ前者ノ方ガ多ク之ハ更ニ左右ノ二種ニ分ケラレル．病狀ガ比較的少ク，確實ナル診斷ハ獨リ「レントゲン」ニ依ツテノミ下シ得ル．

e） 葉間肋膜炎

之ハ各肺葉間ノ間隙ニ發生スルモノデ，「レントゲン檢査ニ依ラナケレバ發見困難ナル場合ガ多イ．滲出性ノ場合ニハ，「レントゲン學的ニハ葉間ノ種類，或ハ大葉間肋膜腔 grosse Lappenspalte ニアルカ，乃至ハ小葉間肋膜腔 kleine Lappenspalte 更ニ又之等肋膜腔ノ一部分ニアルカ全領域ニ亘ルカ等ニヨツテ種々ナル像ヲ呈スルモノデアリ，且ツ管球ノ位置ニ依ツテモ色々ノ映像ヲ示スモノデアル．

他方又鑑別診斷ヲ要スルモノモ多々アリ，之ガ診斷ハ極メテ愼重ナルヲ要スル．

尙ホ葉間肋膜炎ニハ乾性ノモノモ屢々來ルノデアルガ，此ノ場合ニハ治癒シタル後ノ葉間胼胝ト區別スルコトノ困難ナコトガアル．

最後ニ葉間毛髮像モ屢々遭遇スルモノデアツテ，之ガ病的ノモノナリヤ否ヤニ關シテハ議論ガアルノデアルガ，我々ハ之ヲ一切本統計ニ算入シナカツタ．

（A） 通常滲出性肋膜炎

以上ニヨツテ肋膜炎ノ大體ヲ述ベタノデアルガ，本統計ニ於テハ病期ニ依ル分類ヲセズ，主トシテ部位ニ依ル分類法ヲ採ツタ．

先ヅ初メニ通常滲出性肋膜炎ヲ年度別，性別並ニ病側別ニシ，更ニ漿溜液ノ量ヲ少量，中等量，大量ノ三ツニ分ケテ表ヲ作ツテ見タ．

第18表ガソレデアル．

年度別ニミルト，11年度ニハ前年度ニ比シテ急激ニ增加シテキルガ，12年度ニハ再ビ減少シテキル．

性別デハ男子ニ於テ稍ヤ多イ．病側別デハ全

第18表　通常滲出性肋膜炎

年度	♂ 左側 少量	中等量	大量	左側計	右側 少量	中等量	大量	右側計	兩側 少量	中等量	大量	兩側計	♂計	♀ 左側 少量	中等量	大量	左側計	右側 少量	中等量	大量	右側計	兩側 少量	中等量	大量	兩側計	♀計	男女計
10年度	4	6	3	13	21	7	6	34	0	0	0	0	47	8	6	2	16	17	4	3	24	1	0	0	1	41	88
11年度	23	10	8	41	34	12	9	55	4	0	0	4	100	6	8	2	16	34	16	7	57	3	4	0	7	80	180
12年度	9	7	4	20	23	11	6	40	1	1	1	3	63	10	8	6	24	13	10	4	27	2	2	0	4	55	118
累計	36	23	15	74	78	30	21	129	5	1	1	7	210	24	22	10	56	64	30	14	108	6	6	0	12	176	386

體トシテ男女共右側ガ左側ノ約2倍トナツテキル．兩側ノモノハ遙カニ少イ．

液量ニツイテ見ルト少量ノモノ最モ多ク，中等量之ニ次ギ，大量ノモノガ最モ少イ．

然シ尙ホ仔細ニ觀察スルト，右側ニアツテハ中等量乃至大量ノモノガ，少量ノモノニ比シテ遙カニ少數ナルニ拘ラズ，左側ニ於テハ中等量以上ノ液量ヲ有スルモノノ比ガ右側ニ比ベテ大ナル結果ヲ示シテキル．

第19表ハ全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル通常滲出性肋膜炎ノ百分率ヲ示シタモノデアル．

第20表ハ，上記ノ通常滲出性肋膜炎ヲ合計シテ年齡別ニ觀タノデアルガ，15歲ヨリ24歲迄ノ間ニ於テ最多數ヲ示シテキル．既ニ述ベタ如ク，肺病變ノ明カナモノハ肋膜炎ノ項目ヘハ算入シテキナイノデアルカラ，本表中ノ大部分ノモノハ初感染時乃至ハ結核第二期ニ出現スル所謂特發性肋膜炎ニ相當スルモノト考ヘラレル．從ツテ本表ノ結果カラ見レバ，我國ニ於テハ青年期前後ニ於テ結核初感染ヲ受ケルモノノ少クナイコトガ理解出來ル．

(B)　乾性肋膜炎

第21表ハ乾性肋膜炎ヲ集メタモノデアル．之ニ屬スルモノハ「レントゲン學的ニハ一般ニ何等肋膜ノ變化ヲ發見シ難ク，時ニ僅カニ橫隔膜運動ノ制限ヲ見ルニ過ギナイガ，理學的ニハ摩擦音乃至ハ捻髮音ヲ聽取シ得ルモノデアル．全數僅カニ30例，男女同數デアリ，病側別トシテハ男女ニヨリ違ヒガアルガ合計スレバ左右略ボ同數デアル．

第22表ハ之ヲ年齡別ニ觀タモノデアルガ例數ガ少イ爲メ確タル結果ヲ摑メナイ．

次ニ第23表ハ所謂癒着性肋膜炎ヲ集メタモノデアル．但シ我々ガ茲ニ言フトコロノモノハ，「レ線的ニモ明カニ肋膜ノ變化ガ認メラレ，尙ホ理學的ニモ其ノ部ノ濁音及ビ摩擦音ヲ聽キ得ルモノデアツテ癒着完成ノ一歩手前ノモノデアル．性別ニハ女ニ多ク，病側トシテハ全般的ニ觀テ右側ガ多イ結果ヲ示シテキル．

第24表ノ年齡別デハ少數ノタメ確實ナ結果ヲ

第19表　全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル通常滲出性肋膜炎ノ百分率

♂實數 210人	%	♀實數 176人	%	♂＋♀實數 386人	%
♂全訪所者 12144人ニ對シ	1.7	♀全訪所者 13616人ニ對シ	1.3	全訪所者(♂＋♀) 25760人ニ對シ	1.5
♂全結核 3279人ニ對シ	6.4	♀全結核 3637人ニ對シ	4.8	全結核(♂＋♀) 6916人ニ對シ	5.6

第20表　年齢別ニ見タル通常滲出性肋膜炎

年齢	男		女		男女計	男女總數ニ對スル%
	實數	男總數ニ對スル%	實數	女總數ニ對スル%		
0 — 4	3	1.4	2	1.1	5	1.2
5 — 9	11	5.2	8	4.5	19	4.9
10 — 14	25	11.9	23	13.1	48	12.5
15 — 19	67	31.9	44	25.1	111	28.8
20 — 24	57	27.1	50	28.5	107	27.7
25 — 29	15	7.2	20	11.4	35	9.1
30 — 34	10	4.8	9	5.1	19	4.9
35 — 39	8	3.6	8	4.5	16	4.2
40 — 44	3	1.4	4	2.3	7	1.8
45 — 49	2	1.0	2	1.1	4	1.0
50 — 54	1	0.5	2	1.1	3	0 8
55 — 59	2	1.0	2	1.1	4	1.0
60 — 64	3	1.4	1	0.6	4	1.0
65 — 69	2	1.0	1	0.6	3	0.8
70 以上	1	0.5	0	0	1	0.3

第21表　乾性肋膜炎

年度	男			男計	女			女計	男女計
	左	右	兩側		左	右	兩側		
10 年度	0	1	0	1	2	2	0	4	5
11 年度	5	4	0	9	5	2	0	7	16
12 年度	1	4	0	5	1	3	0	4	9
累計	6	9	0	15	8	7	0	15	30

第22表　年齢別ニ見タル乾性肋膜炎

年齢	男	女
0 — 4	0	0
5 — 9	1	1
10 — 14	2	2
15 — 19	5	2
20 — 24	4	3
25 — 29	1	3
30 — 34	0	2
35 — 39	2	0
40 — 44	0	0
45 — 49	0	2
50 — 54	0	0

第23表　癒着性肋膜炎

年度	男			男計	女			女計	男女計
	左	右	兩側		左	右	兩側		
10年度	3	3	0	6	3	2	1	6	12
11年度	1	0	0	1	1	10	0	11	12
12年度	4	4	3	11	5	11	2	18	29
累計	8	7	3	18	9	23	3	35	53

第24表　年齢別ニ見タル癒着性肋膜炎

年齢	男	女
0 — 4	0	0
5 — 9	1	2
10 — 14	1	2
15 — 19	4	5
20 — 24	6	7
25 — 29	2	6
30 — 34	1	6
35 — 39	3	2
40 — 44	0	3
45 — 49	0	0
50 — 54	0	1
55 — 59	0	1
60 — 64	0	0

云爲スル事ガ出來ナイ.

(C) 異型性肋膜炎

次ニ第25表, 第26表, 第27表ハ所謂異型性肋膜炎ヲ集メタモノデアル. 之等ハ凡テ比較的新鮮ナモノノミデアツテ, 既ニ胼胝形成ニ陷ツタモノハ此處ヘハ入レテヰナイ.

外套狀肋膜炎ハ10年度ニ於テ1人(♂24歳)發見シ得タダケデアル. 之ハ結核初感期ノモノデアツタト考ヘラレル.

葉間肋膜炎ハ全數25人, 女ニ於テ稍ヤ多ク, 左側ノモノハ一例モナカツタ.

包裹性肋膜炎ハ全數8人, 女子ニナク, 病側トシテハ右側ガ左側ノ3倍トナツテヰル.

縱隔膜肋膜炎ハ全數3人, 男子ニナク, 左側ノモノ2人, 右側ノモノ1人トナツテヰル.

卽チ異型性肋膜炎ハ全部ヲ合シテモ僅々36例

第25表　葉間肋膜炎

年度	男		男計	女		女計	男女計
	左	右		左	右		
10年度	0	0	0	0	0	0	0
11年度	0	5	5	0	4	4	9
12年度	0	6	6	0	10	10	16
累計	0	11	11	0	14	14	25

第26表　包裹性肋膜炎

年度	男		男計	女		女計	男女計
	左	右		左	右		
10年度	0	1	1	0	0	0	1
11年度	2	3	5	0	0	0	5
12年度	0	2	2	0	0	0	2
累計	2	6	8	0	0	0	8

第27表　縱隔膜肋膜炎

年度	男		男計	女		女計	男女計
	左	右		左	右		
10年度	0	0	0	2	0	2	2
11年度	0	0	0	0	1	1	1
12年度	0	0	0	0	0	0	0
累計	0	0	0	2	1	3	3

ニ過ギズ，之ヲ通常滲出性肋膜炎ノ例ニ比スレバ其ノ發來頻度ノ甚ダ尠イモノデアル事ガ解ル.

第2節　肋膜癒着肥厚

肋膜炎ハ其ノ經過後大部分ニ於テ癒着肥厚ヲ貽ス.「レントゲン學的ニハ横隔膜ノ形態並ニ位置ノ異常，或ハ葉間索狀陰翳トシテ認メラレ，高度ノ場合ニハ胸廓ノ萎縮ヲ呈スル.

肋膜補充腔 Komplementärräume ハ深吸氣ニ際シテ充分開カナクナリ，更ニ進メバ胸壁横隔膜角ハ著明ニ鈍角ヲ呈シ，或ハ全ク消失スルニ至ル. 横隔膜穹ハ正常ノ彎曲ヲ失ヒ水平トナルカ，甚シイ場合ニハ外上方ニ擧上セラレテ直チニ Pleura costalis ニ移行スル. 尙ホ矢狀方向ニ於テ「レントゲン檢査ヲ施ス時ハ，横隔膜穹ノ上緣又ハ心臟陰翳ノ外緣ニ於テ，種々ナル部位ニ天幕樣，棘狀乃至ハ嘴狀ノ突起ガ現ハレル.

胸廓肋膜腔癒着ノ甚ダ輕度ナルモノニ於テハ，胸廓內緣ニ沿フ菲薄ナ一層ノ附加陰翳層トシテ認メ得ルニ過ギザルモノガアリ，斯ルモノハ我々ノ場合ニ於テ往々逸シテキルデアラウ事ヲ否ミ難イ.

胸廓肋膜炎 Pleuritis costalis ノ多クノ場合ニ於テ同時ニ肺尖部肋膜炎 Periapikale Pleuritis ヲ伴フモノデアルガ，此ノモノノ經過後ニ後遺症トシテ肺尖肋膜ノ癒着又ハ肥厚ヲ貽スコトガ多イ.「レントゲン檢査ニ際シテ肺尖部周緣ニ不整波狀ノ所謂隨伴陰影 Begleitschatten ヲ見ルカ，又ハ確實ニ肺尖浸潤ヲ除外シ得ル場合ニ，肺尖部ニ均等一樣ナル陰翳ヲ認メタ際ニハ，概ネ Periapikale Pleuraschwarte ト考ヘテヨイ.

次ニ葉間肋膜癒着肥厚モ，其ノ侵サレタル部位並ニ廣サニヨツテ種々ナル像ヲ呈スル.

普通右側第四肋間ノ高サニ一致シテ現ハレル所謂毛髮像 Haarlinie ハ必ズシモ病的產物トハ限ラナイ. 從ツテ我々モ甚ダ纖細デ且ツ濃度ノ淡イモノハ意義少キモノトシテ「カルテ」ニ記載シナカツタモノガ多イ.

「レントゲン檢査ニ際シテ，葉間肋膜ニ癒着肥厚アルヲ決定スルタメニハ，其ノ幅ト濃度ト更ニ其ノ形態トヲ考慮シナケレバナラナイ.

最モ屢々見ラルヽモノハ，右側上中葉間ノ kleine Lappenspalte ニ相當シテ現ハルヽモノ，

卽チ上述毛髮像ノ部位ニ一致シテ出現スルモノデアルガ，又中下葉間（右側）或ハ上下葉間（左側）ノ肋膜肥厚ガ正面像ニ於テ認メラルヽ事

モ少クナイ．此ノ場合ニモ多クハ索狀陰影トシテ認メ得ルガ，時ニハ又境界不鮮明ノ瀰蔓性陰翳トシテ現ハレル事モアル．

以上ハ「レントゲン線ノ矢狀方向ニ於テノ像デアルガ，葉間肋膜ノ癒着乃至肥厚ヲ正確ニ證明スル爲ニハ，前額方向 Frontale Richtung ノ檢査モ極メテ必要ナ事デアルガ，我々ハ凡テノ患者ニ對シテコノ檢査方法ヲ施シテハヰナカツタノデ，此ノ種變化ノ輕度ナモノハ之ヲ看過シタモノモ尠クナイト考ヘラレル．

最後ニ，我々ハ「レントゲン檢査上掴ミ得タ限リノ肋膜癒着ハ，其ノ甚ダ輕微ナルモノヨリ極メテ廣汎ナルモノニ至ルマデ，凡テヲ「カルテ」ニ記入シタノデアツタガ，言フ迄モ無ク肋膜癒着ハ結核性ノ肋膜病變ニヨツテノミ起ルモノデハナク，幼年期ノ非結核性膿胸ハ勿論，肺炎,「ロイマチス性乃至外傷性肋膜炎等モ癒着ヲ後貼スルデアラウ事ガ考ヘラレルシ，又其ノ輕微ナルモノハ患者ノ全ク覺エナキ間ニ形成セラレテヰル事モ甚ダ多イノデアツテ，既往症ニ關スル陳述ナキ限リ，一々ノ場合ニ就テ其ノ性質ヲ決定スル事ハ不可能ナ理デアルガ，我々ハ便宜上凡テヲ肋膜結核ノ後遺症トシテ此ノ項ニ算入シタ．

但シ肺結核ニ合併シテヰルモノハ本項ニ入ツテヰナイ．

第28表ハ Pleuritis costalis ノ遺殘像トシテノ肋膜癒着乃至肥厚ヲ，年度別，性別及ビ病側別ニ分ケテ觀察シタモノデアル．

第28表　肋膜癒着肥厚

年度	男												男計	女												女計	男女計
	左			左計	右			右計	兩側			兩側計		左			左計	右			右計	兩側			兩側計		
	狹	中等	廣		狹	中等	廣		狹	中等	廣			狹	中等	廣		狹	中等	廣		狹	中等	廣			
10年度	18	9	0	27	26	5	0	31	4	2	0	6	64	21	8	0	29	36	9	0	45	5	2	0	7	81	145
11年度	84	20	0	104	157	14	0	171	24	5	0	29	304	71	10	1	82	169	19	0	188	43	5	0	48	318	622
12年度	82	18	4	104	200	29	10	239	24	5	0	29	372	58	15	0	73	216	27	1	244	40	3	0	43	360	732
累計	184	47	4	235	383	48	10	441	52	12	0	64	740	150	33	1	184	421	55	1	477	88	10	0	98	759	1499

尙ホ範圍ノ廣狹ニヨリ，狹，中等，廣ノ三種ニ分類シテ見タ．

年度別ニハ逐年增加ヲ示シ，男女別デハ大ナル差ヲ認メナイ．

病側別ニ觀ルト男子デハ右ガ左ノ2倍弱，女子デハ約2倍半トナツテヰル．兩側ノモノハ遙ニ尠イ．

尙ホ之等ノ中ニハ Periapikale Pleuraschwarte ヲ同時ニ有シテヰルモノモ少クナイ．

次ニ廣狹ノ程度ニヨツテ分ケテ見ルト，病側乃至ハ性別ニヨツテ差ハアルガ，輕微ナモノノ數ハ中等度以上ノモノニ比シテ，何レモ4.5倍以上ノ多數ニ上ツテヰル．

輕微ナルモノノ大多數ニ於テハ肋膜炎ノ既往症ヲ訊キ出スコトガ出來ナカツタ．從ツテ肋膜炎罹患ノ時期ヲ知ルコトハ全ク不可能デアツタシ，又之等ノ凡テガ果シテ結核性肋膜炎ノ後貼症ナリヤ否ヤモ不明デアル．

中等度以上ノモノニアツテハ其ノ大部分ニ於テ肋膜炎ノ既往症ヲ陳述シテヰルシ，從ツテ其ノ發現ノ時期ヲモ知ル事ガ出來ル．

尙ホ甚ダ廣汎ナル肋膜癒着肥厚ヲ有スルモノガ，12年度ニ至ツテ急ニ增加シテヰルノハ，炎衝消褪シテ醫師ヨリ全快ヲ告ゲラレタル後モ，時々受診ノ必要ヲ感ジテ來訪スルモノガ多クナツタヽメト考ヘラレ，其レ丈ケ結核相談所ヘノ理解ガ深マツタモノト言ヘル．

第29表ハ葉間肋膜胼胝ノミヲ撰ンデ分類シタ

ノデアルガ，女性ニ稍ヤ多ク，右側ハ左側ノ約5倍トナツテヰル．

第30表ハ全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル肋膜癒着肥厚ノ百分率(葉間肋膜癒着ヲモ含ム)ヲ示シタモノデアル．

最後ニ第31表ハ之等ノ凡テヲ(葉間肋膜胼胝ヲモ含ム)年齢別ニシテ觀察シタモノデアル．

然シ前記ノ如ク之等ノ多數ノモノ殊ニ其ノ輕度ノモノデハ，患者自身曾テノ肋膜炎ヲ自覺シテヰナイモノガ甚ダ多ク，從ツテ肋膜炎罹患後現在マデノ時間的經過ヲ知ル事ガ出來ナイ．故ニ此ノ種年齢別表ニハ多クヲ期待スル事ハ出來ナイ．

15歳ヨリ24歳マデノモノニ最モ多イノハ前掲

第29表　葉　肋膜胼胝

年度	男 左	男 右	男 兩側	男計	女 左	女 右	女 兩側	女計	男女計
10年度	1	4	0	5	1	6	0	7	12
11年度	1	8	0	9	2	11	0	13	22
12年度	2	10	1	13	2	10	1	13	26
累計	4	22	1	27	5	27	1	33	60

第30表　全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル肋膜癒着肥厚ノ百分率　(葉間肋膜癒着モ含ム)

♂實數 767人	%	♀實數 792人	%	♂＋♀實數1559人	%
♂全訪所者 12144人ニ對シ	6.3	♀全訪所者 13616人ニ對シ	5.9	全訪所者(♂＋♀) 25760人ニ對シ	6.1
♂全結核 3279人ニ對シ	23.4	♀全結核 3637人ニ對シ	21.8	全結核(♂＋♀) 6916人ニ對シ	22.5

第31表　年齢別ニ見タル肋膜癒着肥厚

年齢	男 實數	男 男總數ニ對スル%	女 實數	女 女總數ニ對スル%	男女計	男女總數ニ對スル%
0 — 4	0	0	0	0	0	0
5 — 9	14	1.8	13	1.6	27	1.7
10 — 14	29	3.8	53	6.7	82	5.3
15 — 19	163	21.2	152	19.2	315	20.2
20 — 24	159	20.7	153	19.3	312	20.0
25 — 29	145	18.8	148	18.7	293	18.7
30 — 34	91	11.8	105	13.2	196	12.5
35 — 39	59	7.7	61	7.7	120	7.7
40 — 44	36	4.7	43	5.4	79	5.2
45 — 49	23	3.0	28	3.5	51	3.3
50 — 54	18	2.4	15	1.9	33	2.1
55 — 59	15	2.0	15	1.9	30	1.9
60 — 64	8	1.1	2	0.3	10	0.6
65 — 69	4	0.5	4	0.5	8	0.5
70以上	3	0.4	0	0	3	0.2

滲出性肋膜炎ノ場合ト變ラナイ.

然シ滲出性ノモノニ於テハ25歳以上ハ比較的急激ニ減少シテキルガ，此處デハ25歳ヨリ29歳マデノ間ニモ比較的多數ニ見ラレ，以後ノ減少モ割合ニ緩カデアル.

即チ青年期前後ニ發現シタ肋膜炎ヲ克服耐過シタモノモ相當ニアル事ヲ物語ツテキル.

第3章 腹 膜 炎

發生經路トシテハ血行性，淋巴道性，並ニ隣接臓器カラノ直接移行ノ三種ガ考ヘラレテキル．經過カラ見テ急性並ニ慢性ノ二種ガアルガ，急性結核性腹膜炎ハ一般ニ稀ナモノデアリ，其ノ中全身粟粒結核症ノ一分症トシテノ腹膜炎ガアルガ，之ハ本項ニ算入シナカツタ．其レ以外ノ急性結核性腹膜炎ト目スベキモノニハ一例モ遭遇シナカツタ.

慢性腹膜炎ノ大多數ガ結核性ノモノデアル事ハ今日良ク知ラレタ事實デアル．之ヲ患部ノ廣狹ニ依ツテ廣汎性ト限局性トニ大別シ，前者ハ更ニ乾性，滲出性，癒着性ノ三ツニ區別出來ル.

（1） 廣汎性結核性腹膜炎

a) 乾性結核性腹膜炎

一般ニ他覺所見少ク，輕度ノ腹壁抵抗ト全般ニ亘ル壓痛ヲ證明スル位ニ止ル．自覺的ニハ腹部ノ疝痛，膨滿感，嘔吐，不規則ナル發熱等ヲ主症候トスル.

b) 滲出性結核性腹膜炎

腹水ハ急速ニ瀦溜スル事モアルガ，普通ハ緩徐ニ漸增シテクル.

腹壁ハ膨隆シ，嘔氣嘔吐ヲ訴ヘ，下痢又ハ便秘ヲ訴ヘル．中等度ノ發熱ヲ示スモノガ多イガ，經過遷延シテ全ク無熱ノモノモアル.

仰臥位ニ於テハ臍部ハ常ニ鼓音ヲ呈シ，側腹並ニ下腹部ハ濁音ヲ呈スル．體位ヲ變ズル事ニヨツテ濁音界ノ移動ヲ證明シ，又觸診上波動モ著明デアルノガ普通デアルガ，腸間膜ガ高度ノ變化ヲ起シ，癒着ノタメニ其ノ根部ニ向ツテ短縮スル時ハ，小腸ハ腹腔ノ中央ヨリ右側ニ偏シテ固定セラルヽタメニ，臨床的ニハ滲出液多キニ拘ラズ，臍ヨリ右方ハ常ニ鼓音ヲ聽キ，體位移動ニヨリ濁音界ノ變化ヲ呈シナイ事ガアル．之ヲ Thormeyer'sches Symptom ト云フ.

c) 癒着性結核性腹膜炎

前記滲出性腹膜炎ニ於ケル腹水ガ吸收サレルト，肥厚シタ腹膜ガ相癒着シテ塊團ヲ形成スルニ至ル．又一次性ニ來ルモノデハ腹膜ヨリ纖維素滲出物ヲ出シ，之ガ結締組織ヲ以ツテ代リ，腸管腹膜ト腹壁トノ間ニ屢々癒着ヲ營ミ，タメニ牽引樣疼痛ヲ訴フル事ガアル．全身症狀モ一般ニ良好デアツテ，體溫ノ如キモ微熱ノ程度ヲ越エルコトハ少イ.

（2） 限局性結核性腹膜炎

之ハ多ク腸結核ニ附隨シテ現ハレルモノデアツテ，侵サレタル腸管ニ相當スル部ノ腹膜ニ限局性ノ炎症ガ波及シタモノデアル.

結核性腸潰瘍ハ周知ノ如ク廻盲部ニ最モ多ク發生スル．從ツテ限局性結核性腹膜炎モ此ノ場所ニ於ケルモノガ最モ多イノデアツテ，所謂 Ileocöcaltumor ト稱セラルヽモノノ中，蟲樣突起炎ト放線狀菌症ヲ除ク他ノ殆ンド凡テハ之ニ屬スル．或ハ又S字狀部，骨盤臓器接觸部，膽囊部等ニモ起ルコトガアル．自覺的ニハ發生部位ニ限局シタ疼痛ガアリ，他覺的ニハ抵抗及ビ壓痛ヲ感ジ，不規則ナル輕熱ヲ伴フ.

最後ニ結核性腹膜炎ハ他臓器ノ結核ニ合併シテ發現スルコトノ多イモノデアルカラ，實際ニ於テハ本項ニ記載シタ數ヨリモ遙カニ多イモノデアル．例ヘバ全身粟粒結核症ノ一分症トシテノ急性腹膜炎ハ算入シテキナイシ，肋腹膜炎ノ形デ來タモノノ中，肋膜炎症狀ノ優レテキルモノハ肋膜炎項目下ニ入レテオリ，又限局性腹膜炎ニアツテモ腸症狀ノ著明ナモノハ腸結核ノ項目下ニ入レテオル.

成績ハ第32表ニ見ル如クデ，性別ニハ女性ガ男性ノ約3倍ノ罹患率ヲ示シテヰル．

第32表 結核性腹膜炎

年度	男 廣汎性 乾性	男 廣汎性 滲出性	男 廣汎性 癒着性	男 限局性	男 計	女 廣汎性 乾性	女 廣汎性 滲出性	女 廣汎性 癒着性	女 限局性	女 計	總計
10 年度	7	1	1	0	9	20	8	1	2	31	40
11 年度	14	4	2	0	20	49	21	6	2	78	98
12 年度	9	8	9	2	28	35	18	14	6	73	101
累計	30	13	12	2	57	104	47	21	10	182	239

腹膜炎ノ種類トシテハ限局性ノモノガ甚ダ少イノハ前述ノ如ク，コノモノハ多ク腸結核ニ附隨シテ現ハレルモノデアツテ，從ツテ其ノ大部分ハ次項ノ腸結核ノ部ヘ繰リ入レタガタメデアル．廣汎性ノモノデハ乾性ノモノガ最モ多ク，滲出性之ニ次ギ，癒着性ノモノハ一般ニ發病後久シキニ亘ツタモノガ多ク，數トシテハ最モ少イ．

第33表ハ全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル結核性腹膜炎ノ百分率ヲ示シタモノデアル．

第34表ハ腹膜炎ヲ年齢別ニ見タモノデアルガ，男子ニ於テハ15歳ヨリ19歳マデノ間ニ最モ多ク，女子デハ15歳ヨリ29歳マデノ間ニ多イ．

第33表 全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル結核性腹膜炎ノ百分率

♂實數57人	%	♀實數 182人	%	♂＋♀實數 239人	%
男子全訪所者 12144人ニ對シ	0.5	女子全訪所者 13616人ニ對シ	1.3	全訪所者(♂＋♀) 25760人ニ對シ	0.9
男子全結核 3279人ニ對シ	1.4	女子全結核 3637人ニ對シ	5.0	全結核(♂＋♀) 6916人ニ對シ	3.5

第34表 年齢別ニ見タル結核性腹膜炎

年齢	男 實數	男 男總數ニ對スル%	女 實數	女 女總數ニ對スル%	男女計	男女總數ニ對スル%
0 — 4	1	1.8	1	0.6	2	0.8
5 — 9	9	15.7	10	5.5	19	7.9
10 — 14	11	19.3	20	11.0	31	13.0
15 — 19	17	29.8	46	24.2	63	26.3
20 — 24	6	10.5	40	21.9	46	19.2
25 — 29	2	3.5	34	18.6	36	15.1
30 — 34	2	3.5	12	6.6	14	5.9
35 — 39	5	8.7	6	3.3	11	4.6
40 — 44	1	1.8	4	2.2	5	2.1
45 — 49	1	1.8	1	0.6	2	0.8
50 — 54	1	1.8	4	2.2	5	2.1
55 — 59	0	0	2	2.0	2	0.8
60 — 64	0	0	1	0.6	1	0.4
65 — 69	1	1.8	1	0.6	2	0.8
70 以上	0	0	0	0	0	0

第4章 腸 結 核

腸結核ハ乳兒及ビ幼兒ニ於ケル少數ノ場合ヲ除イテハ，殆ンド凡テ續發性ノモノデアリ，肺臓ニ次イデノ結核ノ好發部位デアル．

自覺症狀トシテハ食慾缺損，腹部疼痛，下痢等ガ擧ゲラレル．下痢ハ多ク早朝又ハ夜間ニ來ルノデ雞鳴下痢或ハ夜間下痢 Diarrhoea nocturna ト稱セラレル．然シ病竈ガ小腸ノ上部ニ限局サレテヰル樣ナ場合ニハ，却ツテ頑固ナ便秘ヲ訴ヘルコトガアリ，又下痢ト便秘トガ交代ニ來ルコトモアル．往々消耗性ノ熱型ヲ呈スル．

腸壁ニ發スル結核性潰瘍ハ，腸ノ縱軸ニ直角ニ位置スルコトガ多イカラ，之レガ瘢痕性治癒ヲ營ムト屢々攣縮シテ狹窄ヲ起ス．廻腸ニ生ズルコト最モ多ク，疝痛並ニ腹鳴ガ特徵デアル．腸結核ノ「レントゲン診斷法ハ Stierlin 其ノ他ノ人々ニヨツテ大イニ發達シタノデアルガ，健康相談所ノ如キ少數ノ醫員ガ，日々多數ノ患者ヲ診療シナケレバナラヌ施設ニ於テハ，比較的長時間ヲ要スル腸ノ「レントゲン檢査ノ如キハ到底不可能デアルノデ，腸結核ニ對スル我々ノ診斷ハ凡テX線檢査以外ノ手段ニヨツタモノデアル．

尙ホ前言セル如ク，腸結核ノ殆ンド全部ハ他臓器殊ニ肺ノ結核ヨリ續發性ニ發生スルモノデアリ，肺結核ニ合併セル腸結核ガ如何ニ多イモノデアルカハ，病理解剖學者ノ齊シク知ルトコロデアリ，生前何等著シキ症候ヲ示サナカツタ患者ニシテ，剖檢上廣汎ナ腸病變ヲ發見スルガ如キ所謂 latente Darmtuberkulose モ少クナイ．我々ハ肺ノ病變ガ比較的輕度ナルニ拘ラズ，腸症狀丈ガ著明ナモノノミ此ノ項ニ算入シタノデアツテ，著明ナ肺結核ニ合併シタモノハ凡テ除外シテアル．

成績ハ第35表ニ見ル如クデ，3年間ヲ通ジテ僅々14例ニ過ギナイノハ，腸結核ノ殆ンド凡テガ同時ニ認メ得ベキ肺結核ヲ合併シテヰタカラデアル．

尙ホ各年度共男子ニ於テ一例モミラレナイノハ偶然ノ一致デアラウ．

第35表 腸 結 核

年 度	男	女	男女計
10 年 度	0	3	3
11 年 度	0	6	6
12 年 度	0	5	5
累 計	0	14	14

第36表ハ年齡別ニ觀察シタノデアルガ15歲ヨリ24歲マデノ間ニ最モ多イノハ肺結核ニ於ケルト同樣デアル．

第36表 年齡別ニ見タル腸結核

年 齡	男	女
0 — 4	0	0
5 — 9	0	0
10 — 14	0	1
15 — 19	0	5
20 — 24	0	4
25 — 29	0	1
30 — 34	0	1
35 — 39	0	1
40 — 44	0	1
45 — 49	0	0

第5章 脊椎カリエス」並ニ肋骨カリエス」

脊椎カリエス」ハソノ症狀ノ輕重乃至ハ病勢ノ活動程度等ニヨツテ，種々ナル病期又ハ型ニ分ケラレテヰル．病勢進行シ龜背或ハ寒性膿瘍等ヲ形成スルニ至レバ，診斷ハ多クノ場合容易デアルガ，其ノ早期ノ診斷ハ時ニ甚ダ困難デアル．

脊椎カリエス」ノ診斷ニ當ツテ，最モ有力ナル根據トナルモノハ，臨床症狀デアルガ，殊ニ

ソノ局所症狀ニ主點ガ置カレル.

即チ自覺性疼痛, 脊椎棘狀突起ノ打壓痛(之ニモ脊椎及ビ脊髓性起因, 官能性起因, 內臟性起因等ガアル), 脊柱ニ於ケル輕度ノ外形變化, 脊柱ノ運動制限, 龜背, 膿瘍, 運動知覺障碍等ニ細心ノ注意ガ拂ハレナケレバナラナイ.

次ニX線檢査モ又本症診斷ニ對シテ重要ナル役割ヲ演ズルモノデアル.

例ヘバ椎體ソノモノノ形狀變化, 或ハ椎間腔ノ異常, 椎弓, 橫突起及ビ棘狀突起ニ於ケル變化, 椎體側溝部及ビ腸腰筋影像ノ異狀等ハ脊椎カリエス」ヲ疑ハシムベキ根據トナリ得ルモノデアル.

次ニ肋骨カリエス」モ又自覺性疼痛, 打壓痛, 胸壁軟部ノ腫脹隆起等ノ局所症狀ヲ呈スル.

胸壁ニ見ル寒性膿瘍ノ殆ンド凡テハ肋骨ニ起因スルモノデアツテ, 軟部ニ一次性ニ出來ル事ハ例外ニ屬スル.

成績ハ第37表ニ見ル通リデアル.

性別ニ依ル頻度ニ關シテハ, 歐米ニ於テモ我

第37表 骨結核

年度	男					男計	女					女計	男女計
	胸椎	腰椎	肋骨	胸骨	骨盤		胸椎	腰椎	肋骨	胸骨	骨盤		
10年度	12	1	1	0	1	15	18	2	3	1	0	24	39
11年度	17	8	11	2	0	38	56	6	14	1	0	77	115
12年度	27	6	2	0	1	36	38	11	9	0	0	58	94
累計	56	15	14	2	2	89	112	19	26	2	0	159	248

第38表 全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル骨結核ノ百分率

♂實數 89人	%	♀實數 159人	%	♂+♀實數 248人	%
♂全訪所者 12144人ニ對シ	0.7	♀全訪所者 13616人ニ對シ	1.2	全訪所者(♂+♀) 25760人ニ對シ	1.0
♂全結核 3279人ニ對シ	2.7	♀全結核 3637人ニ對シ	4.4	全結核(♂+♀) 6916人ニ對シ	3.6

第39表 年齡別ニ見タル骨結核

年齡	男		女		男女計	男女總數ニ對スル%
	實數	男總數ニ對スル%	實數	女總數ニ對スル%		
0 — 4	0	0	0	0	0	0
5 — 9	3	3.4	0	0	3	1.2
10 — 14	6	6.7	5	3.2	11	4.4
15 — 19	13	14.6	22	13 8	35	14.1
20 — 24	25	28.0	47	29.6	72	29.0
25 — 29	17	19.1	31	19.5	48	19.4
30 — 34	15	16.8	27	17.0	42	16.9
35 — 39	5	5.6	21	13.2	26	10.5
40 — 44	3	3.4	1	0.6	4	1.6
45 — 49	1	1.1	3	1.9	4	1.6
50 — 54	1	1.1	2	1.3	3	1.2
55 — 59	0	0	0	0	0	0

國ニ於テモ大部分ノ學者ハ男性ニ高率デアルト報ジテキルガ，我々ノ結果ハ女性ニ於テ遙カニ多イ．罹患部位トシテハ胸椎ガ最モ多イノハ諸家ノ報告ト一致シテキル．次ニハ肋骨カリエス」腰椎カリエス」ノ順序トナツテキル．

第38表ハ全訪所者數並ニ全結核數ニ對スル骨結核ノ百分率ヲ示シタモノデアル．

第39表ハ年齡別表デアル．

歐米ノ統計デハ1歲ヨリ10歲マデノモノガ斷然多ク，11歲ヨリ20歲ノモノガ之ニ次イデキル．然シ本邦ノ統計デハ多クノ學者ハ21歲ヨリ30歲マデガ最高デ，11歲ヨリ20歲マデガ之ニ次イデキルト報ジテキル．

我々ノ成績デモ20歲ヨリ29歲マデノ間ガ最高ヲ示シテキル．之ハ我國ニ於ケル結核初感染ガ歐米ノソレニ比シテ年齡的ニ遲レテキルタメデアラウ．

第6章 泌尿器結核

尿路ニ於ケル一ツノ系統的疾患デアツテ，初發部位ハ腎臟殊ニ其ノ髓質ニ限局シテキル．

尤モ腎結核ト雖モ，他臟器ノ結核竈カラ血行性續發性ニ起ルモノデアツテ，腎臟ノ如キ外部カラ菌ノ到達シニクイ深部ノ臟器ニ原發性ノ結核ハナイ．

腎臟ガ侵サレルト早晩尿流又ハ淋巴道ヲ介シテ輸尿管ノ結核ヲ併發シ，更ニ膀胱ヲ犯シテ全尿路ノ結核ニマデ進展スル．

自覺症狀トシテハ時ニ腎臟部ノ疼痛ガアリ，膀胱結核ヲ併發シテオレバ尿意頻數，尿失禁，排尿痛等ガアル．他覺所見トシテハ，腎臟觸知，尿ノ變化卽チ溷濁，蛋白反應ノ陽性，膿球ノ存在，時ニハ結核菌ノ證明又ハ全ク無菌ナル事等ガ擧ゲラレル．更ニ膀胱鏡檢査ヲ行フコトニヨリ結核結節若クハ潰瘍，或ハ輸尿管口等ノ變化等ガ認メラレルシ，病側腎ヲ決定スルタメニハ所謂染尿膀胱檢査法ガアル．

腎臟結核ノ診斷ニ關シ先ヅ必要ナノハ尿ノ所見デアルガ，我々ハ凡テノ患者ニ對シ尿檢査ヲ行ツタワケデハナク，偶々腎臟ヲ觸知スルカ，又ハ患者ノ陳述ニヨツテ尿路結核ヲ疑ツタ場合ニノミ檢査ヲ行ヒ，大體ノ確信ヲ得テ更ニ之ヲ專門醫ニ送リ診斷ヲ確定シタノデアツテ，ソノ發見率ハ實際ニ於ケルヨリモ遙カニ少イト考ヘテキル．尙ホ他ノ項目ニ於ケルト同樣著明ナル肺結核ニ合併シタモノハ此處ヘ算入シテキナイ．

結果ハ第40表ニ見ル如クデアツテ，例數ガ少イノデ確實ナ事ハ言ヒ得ナイガ，男子ニ於テ多ク發見シテキル．

第40表 尿路結核

年度	男	女	男女計
10年度	5	1	6
11年度	5	1	6
12年度	1	4	5
累計	11	6	17

年齡別(第41表)デハ25歲以後40歲マデノ間ニ多イ．

第41表 年齡別ニ見タル尿路結核

年齡	男	女
0 — 4	0	0
5 — 9	0	0
10 — 14	0	0
15 — 19	3	1
20 — 24	0	0
25 — 29	2	1
30 — 34	2	0
35 — 39	4	2
40 — 44	0	2
45 — 49	0	0

第7章 淋巴腺結核

胸腔内淋巴腺結核ハ第一次肺結核ノ部ニ於テ述ベタ．茲ニ記載スルノハ其レ以外ノ淋巴腺結核殊ニ頸腺結核並ニ腸間膜腺結核ニ就テデアル．

淋巴腺結核ハ孰レノ年齢ニ於テモ來リ得ルガ，15歳カラ25歳マデノ間ニ於テ最高ヲ示ス(Fischer)．犯サレタ淋巴腺ハ細胞増殖，結節形成等ニヨツテ腫脹シテ來ル．更ニ乾酪化シ之ガ融解スレバ膿瘍ヲ作ル．隣接組織ト癒着ヲ營ミ皮膚ヲ通ジテ乾酪物質ガ破レルコトモアル．一方石灰化シテ圓イ Kalkkonkrement トシテ殘ル事モアル．然シ又乾酪化傾向ノ少イモノデハ細胞増殖ガ勝ツテオリ，腺腫ハ比較的硬ク derb デ周圍組織トノ癒着モ普通ニハ營マナイ．

(nicht verkäsende, indurative Form) 部位トシテハ頸部ノモノガ最モ多イ(約90%)．更ニ腋窩腺，鼠蹊腺，腸間膜並ニ後腹膜淋巴腺等ガ擧ゲラレル．

極ク初期ニ於ケル診斷ハ容易デハナイ．

明カナ腫脹ヲ呈スルニ至レバ，其ノ硬サハ癌腫ノソレニ似テキテ，單純ナ炎衝性肥大トハ容易ニ區別ガツク．殊ニ淋巴腺ガ次カラ次ヘ犯サレテ所謂 Pakettenbildung ヲ形成スルニ至レバ，診斷ヲ誤ル事ハナイ．

兒童ニ於テ頸部ニ屢々小サク軟イ腺腫脹ヲ觸知スル事ガアルガ，其ノ多クハ單純性ノモノデ，殊ニ頭部又ハ頸部ニ濕疹其ノ他ノ皮膚病ヲ有スルモノニ多イ．此ノ際「ツベルクリン反應ハ有力ナル診斷ノ補助トナリウル．

腹腔内ノ淋巴腺結核ハ結核性腸潰瘍ニ續發スル事ガ多イガ，又子供デハ腸粘膜ノ疾患ナクシテ來ル事モ多イ．

第42表 淋巴腺結核

年度	男		男計	女		女計	男女計
	頸腺	腸間膜腺		頸腺	腸間膜腺		
10年度	5	6	11	14	12	26	37
11年度	11	8	19	25	47	72	91
12年度	4	0	4	24	6	30	34
累計	20	14	34	63	65	128	163

第43表 年齢別ニ見タル頸腺結核

年齢	男	女
0 — 4	0	0
5 — 9	1	3
10 — 14	7	5
15 — 19	7	9
20 — 24	2	18
25 — 29	1	12
30 — 34	1	8
35 — 39	0	6
40 — 44	1	1
45 — 49	0	0
50 — 54	0	1
55 — 59	0	0

第44表 年齢別ニ見タル腸間膜淋巴腺炎

年齢	男	女
0 — 4	0	0
5 — 9	1	1
10 — 14	3	11
15 — 19	1	21
20 — 24	3	17
25 — 29	3	10
30 — 34	1	4
35 — 39	1	1
40 — 44	1	1
45 — 49	0	0

成績ハ第42表ニ見ル如ク，頸腺結核ニ於テモ腸間膜淋巴腺結核ニ於テモ女子ノ方ガ遙カニ多ク，總體トシテ男子ノ約4倍トナツテキル．

此ノ兩性間ノ差違ハ前項腹膜炎ニ於ケルヨリモ更ニ大ナルモノガアル．

年齢別ニ見ルト(第43—44表)腸間膜淋巴腺結核デハ15歳ヨリ24歳マデニ多ク，頸腺結核デハ20歳ヨリ29歳マデノ間ニ多イ．

第8章　其ノ他ノ結核

之ニハ關節結核，結核性痔瘻並ニ皮膚結核ヲ入レタノデアルガ，皮膚結核ハ3年間ヲ通ジテ僅ニ1例デアツタ．

關節結核ハ第二次的ニ血行ヲ介シ，又ハ骨病竈ノ破開ニヨツテ起ルモノガ多イ．

或ハ又關節ニ隣接セル淋巴腺竈カラ淋巴道ヲ通ジテ起ル事モ少クナイ．部位トシテハ膝關節，股關節，肘關節ノ順序ニ多イ．

次ニ結核性痔瘻モ第二次性ニ起ルモノデアルガ，痔瘻ガ果シテ結核性ナリヤ否ヤノ診斷ハ甚ダ困難ナルモノトサレテキル．

其レハ單ニ瘻孔口ノ檢査ノ如キノミデハ結核性ノモノモ非結核性ノモノモ殆ンド區別ノツカヌコトガ屢々アリ，又瘻孔形成後結核菌ガ間モナク消失スル等ノ理由ニ依ル．

一時結核性痔瘻ノ百分率ハ相當高イモノノ様ニ報告セラレテキタガ，最近デハ又低下シツヽアル様デアル．

我々ハ勿論精細ナル試驗方法ヲ用ヒタワケデハナイ．

痔瘻ヲ發見シタ際，患者ノ口述ニヨリソレガ甚ダ頑固ニシテ難治ノモノデアル場合之ヲ結核性痔瘻ト考ヘタ．

成績ハ第45表ニ示シタ如クデアツテ，關節結核デハ男女ノ差ガナイ．

痔瘻デハ男ガ女ヨリ遙カニ多イノハ在來ノ報

第45表　關節結核及結核性痔瘻

年度	男		男計	女		女計	男女計
	關節	痔瘻		關節	痔瘻		
10年度	0	1	1	1	0	1	2
11年度	5	2	7	4	1	5	12
12年度	4	2	6	3	0	3	9
累計	9	5	14	8	1	9	23

第46表　年齢別ニ見タル關節結核

年齢	男	女
0 — 4	0	0
5 — 9	2	0
10 — 14	2	3
15 — 19	3	4
20 — 24	0	0
25 — 29	1	0
30 — 34	0	1
35 — 39	1	0
40 — 44	0	0

第47表　年齢別ニ見タル結核性痔瘻

年齢	男	女
0 — 4	0	0
5 — 9	0	0
10 — 14	0	0
15 — 19	1	0
20 — 24	0	1
25 — 29	2	0
30 — 34	1	0
35 — 39	1	0
40 — 44	0	0

告ト一致シテキル.

年齢別ニミルト(第46—47表)關節結核デハ10歳ヨリ19歳ノ間ニ多イ. 痔瘻デハ例數少ク確實ナ事ハ窺ヒ得ナイ.

結　論

(1) 本編ハ石川縣健康相談所ニ於ケル種々ナル統計的報告ノ後編デアツテ, 各種結核性疾患ニ就テノ臨牀的統計成績ヲ收錄シタモノデアル.

(2) 肺ノ第一次結核トシテノ軟性初期變化群ニ於テハ男女ノ罹患率ハ略同數デアリ, 患側トシテハ右ガ左ノ約3倍トナツテキル.

年齢別ニ觀ルト5—9歳マデノ間ニ於テ急激ニ增加シテキル.

次ニ陳舊ナル硬性初期變化群ハ全被檢人員ノ5.6%ニ於テ認メラレ, 性別ニハ女ニ稍多ク罹患側トシテハ右側ガ左側ノ約5倍ヲ示シテキル. 年齢的ニハ10—14歳ノ間ニ於テ最多ヲ占メテキル. 卽チ其ノ頂點ハ前述軟性初期變化群ニ於ケルヨリモ一楷程遲レテキルノハ軟性ヨリ硬性ニ推移スルマデノ時間的差違ヲ示スモノデアロウ.

(3) 肺ノ第二次結核トシテノ血行性撒布性結核ハ3年間ヲ通ジテ僅ニ33例ヲ經驗シタノデアツタ. 大部分ハ兩側性デアリ性別デハ女ガ男ノ約3倍ヲ示シテキル. 年齢別デハ5—14歳マデノモノガ多イ.

次ニ肺尖結核デハ男ガ女ヨリ稍多ク患側トシテハ右ガ左ノ3倍デアリ兩側ノモノハ左側ノモノヨリ更ニ少數デアル. 年齢別ニ觀ルト思春期前後ニ於テハ女性ニ多ク成年期以後ハ男性ニ多イ.

最後ニ通常慢性肺癆デハ男子ニ於テ稍多ク, 病側別ニシテミルト片側性ノ比較的狹小ナモノデハ右ガ左ノ3倍トナツテオリ此ノ關係ハ上記肺尖結核ニ於ケルト同樣デアル. 稍進ンデ兩側性ノモノハ男女共慢性肺癆ノ約半數ヲ占メテキル. 更ニ進ンデ全肺野性ノ極メテ廣汎ナモノハ甚ダ少數デアツタ. 年齢別デハ比較的進行シタモノハ女デハ15—19歳迄ニ最高ヲ示シ男デハ20—24歳迄ニ最高デアル. 換言スレバ女子ハ男子ヨリモ年若クシテ重症肺結核ニ陷ル事ノ多イ事實ヲ語ツテキル. 因ニ全被檢者ニ對スル成人肺癆ノ百分率ハ6.1%デアツタ.

(4) 肋膜炎ノ中滲出性肋膜炎ハ全被檢者ノ1.5%ニ相當シテヲリ, 男性ガ女性ヨリモ稍多ク, 患側トシテハ男女共右ガ左ノ2倍ヲ占メテキル. 兩側性ノモノハ386例中12例ニ過ギナカツタ. 液量トシテハ少量ノモノ最モ多ク中等量, 大量ノモノ之ニ亞イデキル. 年齢別ニハ15歳ヨリ24歳迄ノ間ニ於テ最多ヲ示シテキル.

次ニ乾性肋膜炎ハ例數僅ニ30例ニ過ギズ, 性別ニハ略同數デアリ, 罹患側モ男女ヲ通ジテ左右同數デアル.

最後ニ異型性肋膜炎ハ3年間ヲ通ジテ36例ヲ得タニ過ギズ確カナ統計成績ハ出シ得ナイノデアルガ, 發生頻度トシテハ葉間肋膜炎最モ多ク, 包裹性肋膜炎, 縱隔膜肋膜炎, 外套狀肋膜炎ノ順序トナツテキル.

(5) 肋膜癒着肥厚ハ性別ニ於テ大差ガナイ. 病側トシテハ男女平均シテ右ガ左ノ約2.5倍トナツテキル. 廣狹ノ度合カラ觀ルト輕度ナ癒着ハ中等度以上ノモノニ比シテ4乃至5倍ニ當ツテキル. 年齢デハ15歳ヨリ24歳迄ノモノニ最モ多イ. 次ニ葉間肋膜胼胝ハ女性ニ稍多ク右側ガ左側ノ5倍ヲ占メテキル. 因ニ肋膜癒着肥厚ハ全訪所者ノ6.1%ニ於テ認メ得ル.

(6) 腹膜炎ニ於テハ女子ハ男子ノ3倍ヲ占メテキル. 年齢デミルト男性ハ15—19歳, 女性ハ15—29歳ノ間ニ多イ.

(7) 他ノ著明ナ合併症殊ニ肺結核ヲ伴フモノハ除外シタノデ, 3年間ヲ通ジテ14例ヲ得タニスギズ而モ凡テガ女子デアツタ. 15—24歳マデノ間ニ於テ最高ヲ示シテキル.

(8) 骨結核ヲ性別ニミルト女子ニ遙カニ多

ク此ノ點從來ノ多クノ報告ニ反シテキル．罹患部位トシテハ胸椎，肋骨，腰椎ノ順序トナツテキル．年齢デハ21歳ヨリ29歳マデガ最高デアル．

(9) 泌尿器結核ハ例數僅々17例デアツテ確ナコトハ言ヒ得ナイガ男性ハ女性ノ約2倍ヲ占メ，年齢的ニハ25—40歳マデノ間ニ多イ．

(10) 淋巴腺結核ノ種類トシテハ頸腺並ニ腸間膜腺結核デアルガ女ハ男ノ約4倍ヲ占メテキル．15歳ヨリ29歳マデガ最高デアル．

(11) 其ノ他ノ結核ニ屬スルモノトシテハ關節結核ト結核性痔瘻トガアルガ，關節結核デハ男女略同數，痔瘻デハ男子ハ女子ヨリモ遙ニ多數ヲ占メテキル．年齢別ニミルト關節結核ハ10—19歳ノ間ニ多イガ，痔瘻デハ例數少ク確實ナ事ハ言ヒ得ナイ．

稿ヲ終ルニ臨ミ恩師大里敬授ノ御校閲ヲ鳴謝ス．